



和歌山県立医科大学附属病院

WAKAYAMA MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

病院概要 2026



2026年4月

和歌山県立医科大学附属病院理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、
地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。



当院は病院機能評価の認定を受けています。

CONTENTS

病院長あいさつ	1
組織図・沿革	2
交通アクセス・構内マップ	3
フロア案内	4
外来診療案内	6
総合受付案内・入院センター案内	7
患者相談窓口案内	8
地域医療の発展に貢献	9
都道府県がん診療連携拠点病院	10
施設基準	12
診療科ご案内	16
中央部門等ご案内	30



地域医療機関との連携を一層強化し、 大学病院として果たすべき役割を 明確にする

病院長 西村 好晴

和歌山県立医科大学は昨年開学80周年を迎えました。令和8年は新たな時代の幕開けとなりますが、依然として大学病院を取り巻く社会情勢は厳しいと思われまます。医療の高度化、人材の確保、医療のDX化、働き方改革への対処、そして病院経営の課題など、同時に多くのテーマに取り組んでいかなければなりません。しかし、そのような時代だからこそ大学病院の使命と価値がこれまで以上に問われるのではないかと考えています。県内唯一の特定機能病院である和歌山県立医科大学附属病院の使命は、「安全で質の高い医療を行うこと」、「先進的な医療の研究を行うこと」、「次世代を担う医療人を育成すること」、「地域医療の発展に貢献すること」です。この基本理念を胸に、未来に向かって、地域のみならず国内外の教育・臨床・研究に貢献してまいりたいと思います。

低侵襲治療の強化

当院では心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、婦人科、泌尿器科においてロボット手術を導入しており手術の低侵襲化を進めています。また、大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全、心房中隔欠損症などの構造的な疾患や不整脈（心房細動）に対する経皮的カテーテル治療に最新のデバイスを導入することにより、合併症の少ない低侵襲治療に取り組んでいます。

県内拠点病院としての新たな役割

昨年、県内では初めて「こどものこころの拠点病院」と「てんかん支援拠点病院」に指定されました。当院は拠点病院として地域医療機関との連携をより一層強化し、児童虐待や発達障害などに対する診療の支援、相談体制の強化、てんかん患者と家族の支援、相談体制の強化に努めてまいります。

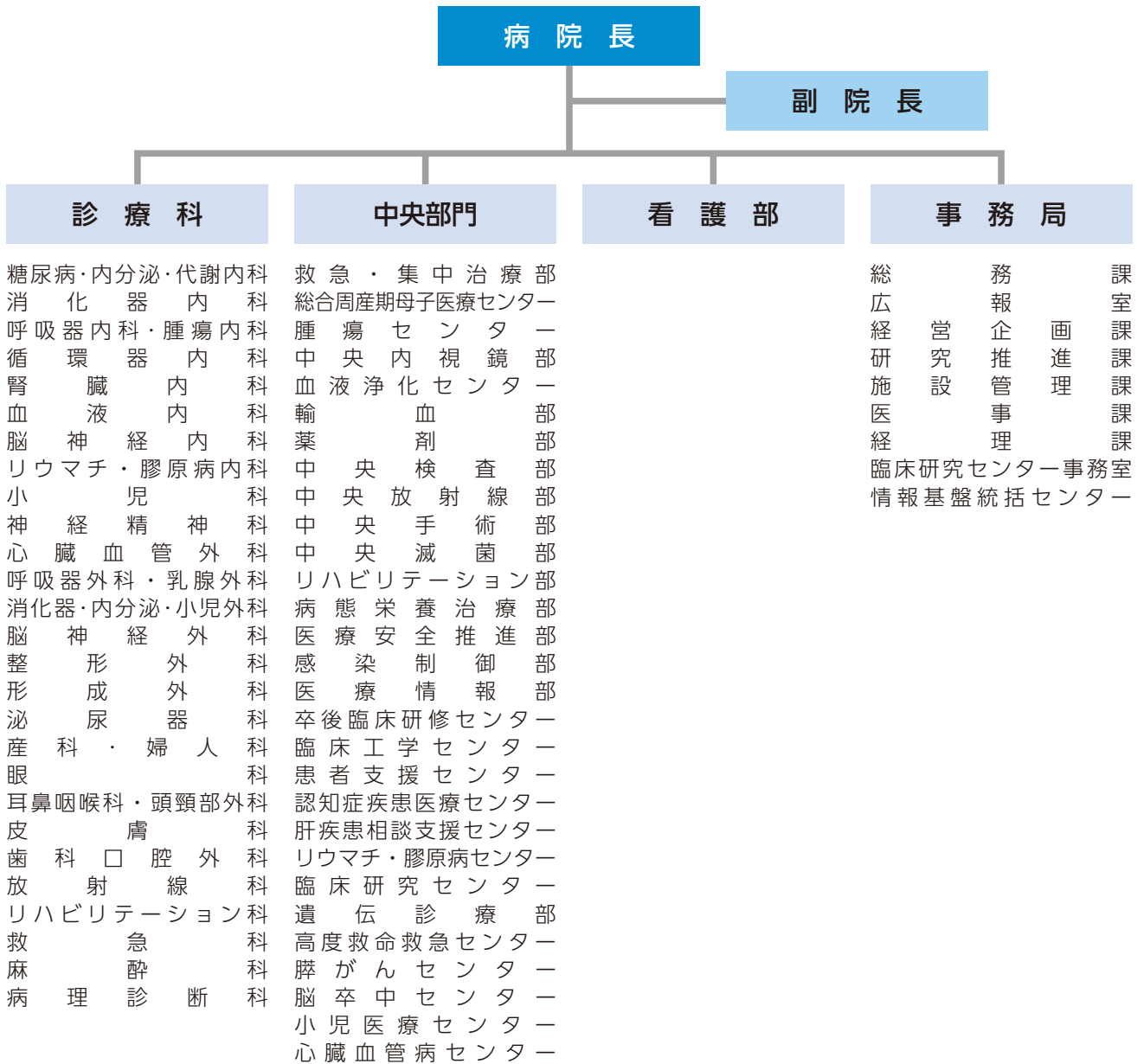
救急医療体制の充実と強化

当院に遠隔ICUを設置しました。当院が支援病院として地域中核病院のICUやHCUをネットワークで接続し、24時間体制でモニタリングを行い、地域医療機関の重症患者の診療を支援する体制を整えました。少ないリソースで複数の患者に同一レベルの医療提供ができることを目指します。また、県内では初めてハイブリッドERシステムを導入します。このシステムは搬入ベッドのまま初期治療、CT撮影、手術/血管内治療をすべてハイブリッドERで完結させることにより、治療時間の短縮、救命率の向上を目指します。県内最後の砦の病院として当院の救急医療体制を強化します。

このように和歌山県立医科大学附属病院は地域医療機関との連携を強化し、大学病院として果たすべき役割を明確にすることにより地域医療の発展に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。

令和8年4月1日

組織図



沿革

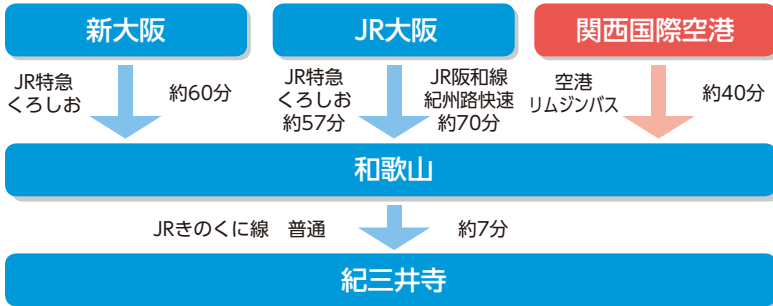
昭和20年2月8日 和歌山県立医学専門学校設置認可
 昭和20年4月1日 和歌山県立医学専門学校附属医院開院
 昭和23年2月20日 和歌山県立医科大学設置認可
 昭和24年8月1日 附属医院を附属病院と改称
 平成元年7月1日 高度集中治療センター設置
 平成7年4月1日 特定機能病院の承認
 平成11年5月8日 和歌山市紀三井寺地区に新築移転
 平成12年6月1日 救命救急センター設置
 平成15年1月1日 ドクターヘリ就航
 平成18年4月1日 独立行政法人化

平成19年1月31日 都道府県がん診療連携拠点病院指定
 平成21年10月1日 腫瘍センター設置
 平成23年4月1日 高度救命救急センター指定
 平成26年3月29日 附属病院（東棟）竣工
 令和元年9月1日 膀胱がんセンター設置
 令和元年11月1日 脳卒中センター設置
 令和2年11月1日 小児医療センター設置
 令和4年2月1日 PFM 推進（周術期外来開設）
 令和5年11月1日 心臓血管病センター設置

交通アクセス

鉄道のご利用

JR きのくに線「紀三井寺駅」から徒歩約 10 分



バスのご利用

和歌山バス「医大病院」下車すぐ
 和歌山バス・有田鉄道バス「医大病院前」から徒歩約 3 分
 和歌山バス「医大病院東口」から徒歩約 5 分
 ※主要駅 (JR 和歌山駅・海南駅、南海和歌山市駅) から運行しています。

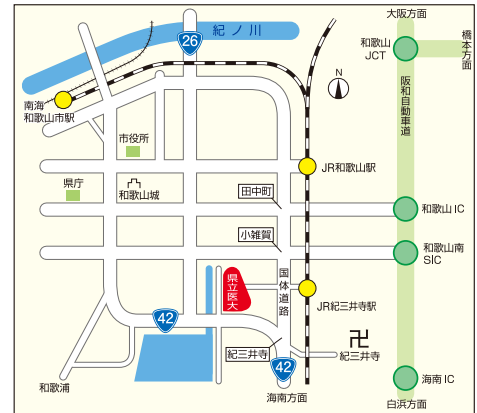
車のご利用

阪和自動車道海南 IC から約 20 分
 阪和自動車道和歌山南スマート IC (ETC 専用) から約 15 分
 阪和自動車道和歌山 IC から約 25 分

- 駐車場利用案内 収容台数 646 台
 駐車料金 1 時間ごと 100 円

※外来受診の方、入院付添の方、障害者の方には病院内での所定の手続きによる割引・免除措置があります。ただし、駐車場の台数には限りがありますので、入院患者さんの駐車場のご利用はお断りしています。

周辺地図



駐車場進入経路案内



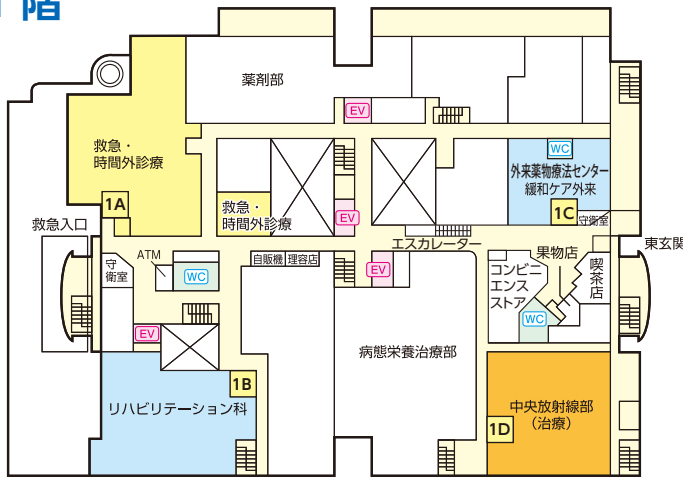
構内マップ



病院・大学敷地内は禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。

フロア案内

1 階



救急入口 守衛室 東玄関

●診療部門

1A 救急外来

1B リハビリテーション科

1C 外来薬物療法センター
緩和ケア外来

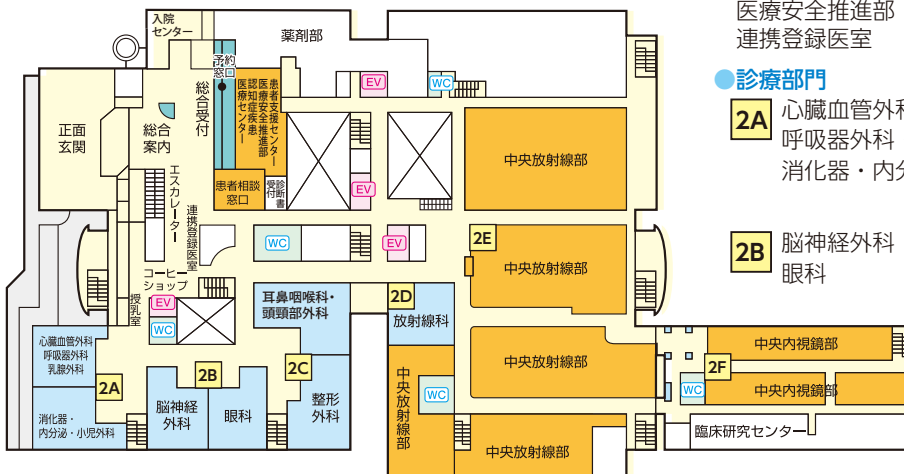
1D 中央放射線部 (治療)

●その他施設

理容店
自動販売機
ATM (紀陽銀行)

コンビニエンスストア
喫茶店
果物店

2 階



正面玄関 総合案内 総合受付
入院センター 予約窓口 患者相談窓口
患者支援センター (がん相談支援センター)
医療安全推進部 認知症疾患医療センター
連携登録医室

●診療部門

2A 心臓血管外科
呼吸器外科・乳腺外科
消化器・内分泌・小児外科

2B 脳神経外科
眼科

2C 整形外科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2D 放射線科

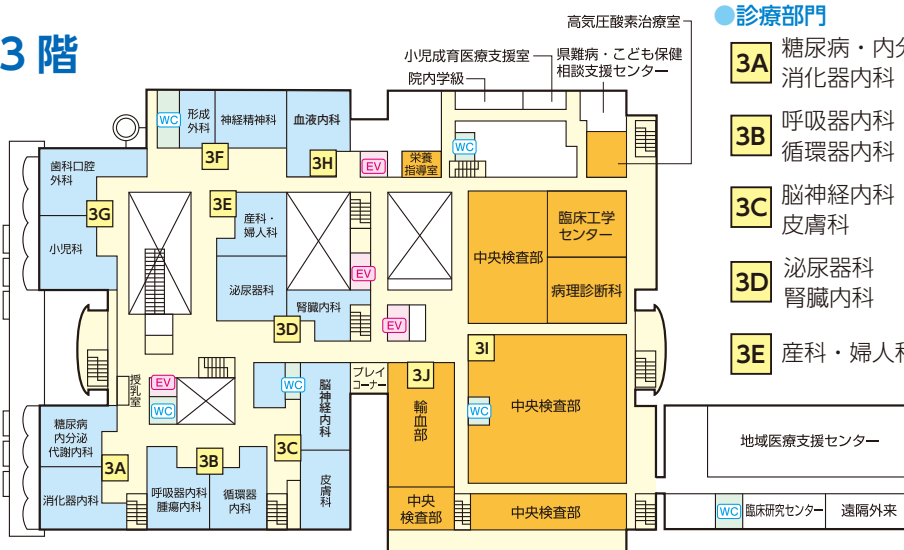
2E 中央放射線部 (検査)

2F 中央内視鏡部

●その他施設

授乳室
図書コーナー
コーヒーショップ
アメニティセット説明窓口

3 階



●診療部門

3A 糖尿病・内分泌・代謝内科
消化器内科

3B 呼吸器内科・腫瘍内科
循環器内科

3C 脳神経内科
皮膚科

3D 泌尿器科
腎臓内科

3E 産科・婦人科

3F 神経精神科
形成外科

3G 歯科口腔外科
小児科

3H 血液内科

3I 中央検査部

3J 輸血部

栄養指導室

●その他施設

地域医療支援センター
臨床研究センター
県難病・子ども保健相談支援センター
院内学級
授乳室

4階



●診療部門

4A 麻酔科 (ペイン、術前・周術期外来、無痛分娩)
リウマチ・膠原病センター

●高度救命救急センター

4B ICU
HCU

●中央手術部

4D 手術室
家族説明室

●その他施設

大会議室
臨床講堂 I・II

血液浄化センター

5～13階

西病棟

東病棟

	13階	展望レストラン
病室 1251～1273	12階	病室 1201～1223
病室 1151～1173	11階	病室 1101～1123
病室 1051～1073	10階	病室 1001～1021、小児医療センター
病室 951～973	9階	病室 901～923
病室 851～873	8階	病室 801～823
病室 751～777、高度救命救急センター (CCU)	7階	病室 701～723
病室 651～663、総合周産期母子医療センター (NICU, GCU)	6階	病室 601～623
病室 551～581	5階	病室 501～516

患者さんへのお願い

- 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
 - 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じることはありませんらすぐにお知らせください。
 - 全ての患者さんが適切な医療を受けることができるよう、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
 - 当院は、教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。
 - 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。
- ※当院では、患者さんの安全を第一に診察しておりますが、他の患者さんや職員への暴力、暴言、大声又は威嚇などの迷惑行為があった場合は、診察をお断りしたり、退去を求めることがあります。なお、これらの行為が著しい場合は、警察に通報しますので、ご了承ください。

携帯電話・スマートフォン等の使用について

病院内での携帯電話、スマートフォン等の使用については、院内に掲示していますポスターに記載のルールに従って、診察の妨げとならないようご協力ください。なお、電源 OFF エリアでは必ず電源をお切りください。詳細は、病院職員にお尋ねください。

外来診療案内

診療予約について（初めて受診される方）

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書（紹介状）」をお持ちの方による「**予約制**」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等から FAX でお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ご予約の流れ

- ①かかりつけの医療機関等から当院所定の「**紹介予約申込書**」と「**診療情報提供書（紹介状）**」を予約センターあてに FAX 送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日から概ね 3 日を目途に FAX 送信をお願いします。
- ②予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関に FAX 返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- ③予約当日は、予約票・診療情報提供書（紹介状）・画像データ（必要時）・マイナンバーカード（保険証）・診察券（受診歴のある方）・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- ④予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号（073-447-2300）から各診療科外来へ平日 15:00～17:00 におかけください。

予約センター（患者支援センター）

FAX（医療機関専用）・・・073-441-0805

TEL（医療機関専用）・・・073-441-0804

【受付時間】月・火・水・金・・・9:00～19:00
木……………9:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)

TEL（患者さんからの予約変更専用）・・・073-441-0489

【受付時間】月～金・・・8:30～16:00（祝日・年末年始を除く）

※「膀胱がんドック」及び「がん検診後の 2 次検査」の予約については、上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

※院内に予約窓口も開設しています。

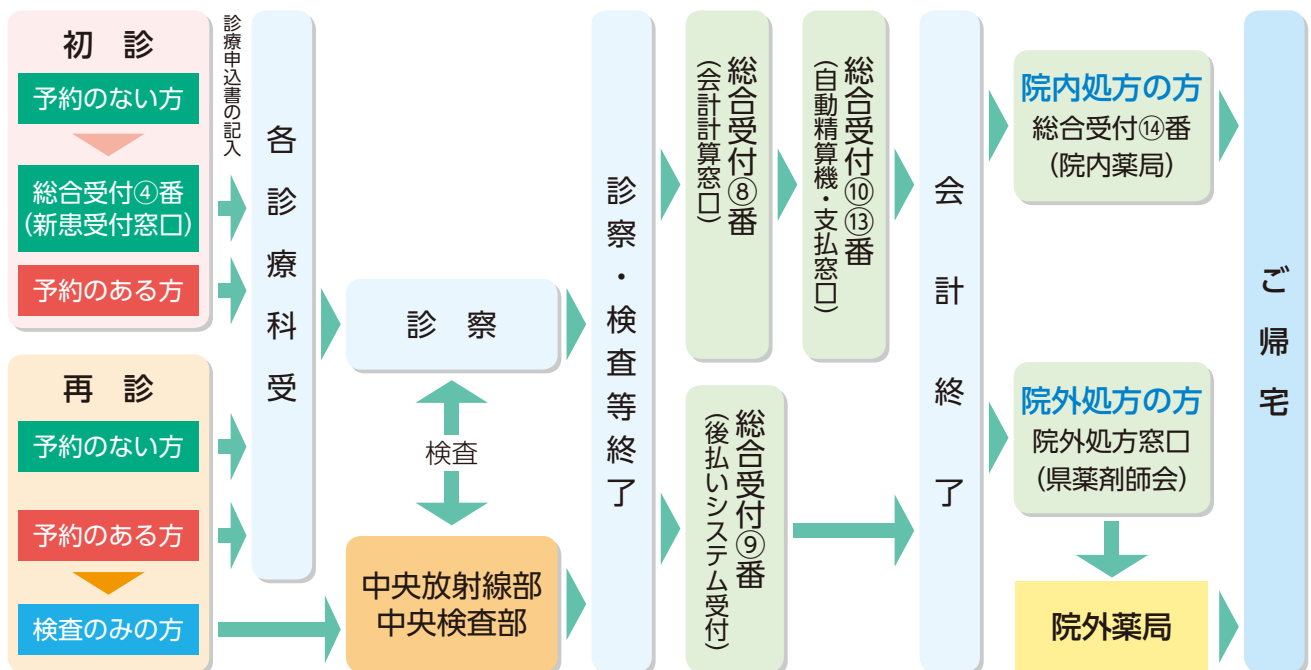
【対応時間】月～金・・・9:30～17:00（祝日・年末年始を除く）

保険医療機関の機能分化を推進するため、**紹介状なしに当院を受診する場合、「選定療養費」をご負担いただきます。**一部例外もありますので、詳細は病院職員にお尋ねください。

また、国の方針に従い、病状が安定している患者さんは当院主治医からお近くの診療所、医院等へ紹介させていただくことがあります。紹介されたのちに再度同診療科を紹介状なしに受診された場合は、再診にかかる選定療養費をご負担いただくことがあります。

【初診時】医科 7,130 円・歯科 5,090 円 【再診時】医科 3,050 円・歯科 1,930 円

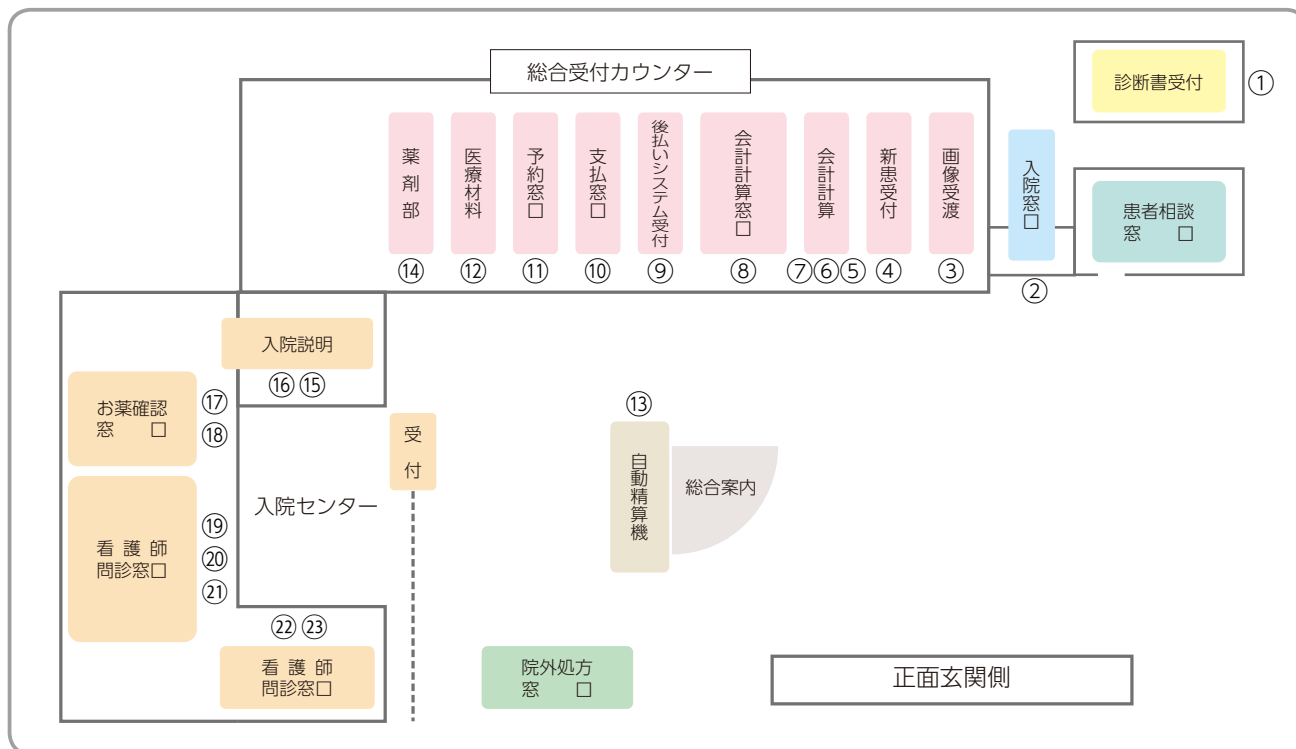
外来受診の流れ（当院での一般的な外来受診の流れをご紹介します。）



総合受付案内

2階の総合受付では、会計計算・支払・予約・入院案内・各種相談まですべてを1箇所で完了できるようにしています。

2階総合受付及び各種窓口案内図



入院センター案内

入院センターでは、入院の決まった患者さんの情報をお聞きして入院前から支援をしています。入院前の支援としては、①入院前の生活状況の確認 ②入院前に利用していたサービスの確認 ③認知機能の確認 ④常用薬の確認を行っています。入院前から患者さんの身体的、精神的、社会的背景を把握し、院内外の多職種と連携して入院から退院まで医療・看護・介護の必要な援助を切れ目なく受けられるよう支援します。

特に認知機能の確認としては、当院に入院される65歳以上の患者さんに対して、DASC-21とMMSEという認知機能スクリーニング検査を実施しています。これにより入院される患者さんの認知機能をあらかじめ把握し、入院中の転倒・転落、点滴抜去、服薬間違いなどを減らすように対策しています。



患者相談窓口案内

患者相談窓口について

治療や手術などで入院や外来受診される患者・家族の皆さんの不安や迷いをなくして、安心してそれぞれの目的に進めるように多職種協働による切れ目のないワンストップサービスを心がけています。

- 医療費・生活費
 - ・高額療養費制度
 - ・各種の公的医療費助成制度
 - ・障害年金
 - ・生活保護制度
 - ・その他お金に関すること
- 今後の療養先
 - ・転院先
 - ・施設入所
 - ・在宅生活
- 医療・看護・介護
 - ・かかりつけ医
 - ・往診医、訪問看護
 - ・介護保険サービス
 - ・障害福祉サービス
 - ・医療的ケア児への支援
- 医療相談・療養上の相談
 - ・治療、副作用、後遺症
 - ・セカンドオピニオン
 - ・仕事との両立
 - ・学業との両立
 - ・患者会、家族会
 - ・その他医療に関すること
 - ・その他療養上の相談に関すること
- その他の相談
 - ・脳卒中に関すること
 - ・心臓病に関すること
 - ・医療の安全に関すること
 - ・倫理的な問題に関すること
 - ・実習生に関すること
 - ・特定行為に関すること
 - ・治験に関すること
 - ・先進医療に関すること
 - ・臨床研究に関すること
 - ・その他の医事に関すること



- 場 所** 2階総合受付隣
- 受付時間** 平日9:00～17:00
- 主な対応者**
- 医療・福祉に関するご相談
患者支援センター職員（看護師、社会福祉士）
 - ご意見・ご要望等に関すること
医事相談員、医事課職員

セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に入院または通院されている方を対象に、現在受けている診断や治療について当院の医師が専門的見地から意見や判断を提供し、その意見や判断を、患者さんご自身が治療方法を選ぶ際の参考にさせていただくことが目的です。完全予約制です。

診療科、対象疾患によっては県内の「遠隔医療支援システム」設置医療機関でオンライン・セカンドオピニオンを受けていただけます。

- 対 象** 患者さん本人、患者さんの家族（患者さん本人の同意書等が必要）
- 予約方法** 電話でのみ受け付けています。
専用電話番号 073-441-0824（平日9:00～17:00）
（患者支援センター）
- 時間・料金**（対面）45分間・15,140円（税込）／（オンライン）45分間・18,140円（税込み）
（全額自己負担。健康保険適用なし）

地域医療の発展に貢献

■ 高度救命救急センター

高度救命救急センターは、大学病院併設という利点を最大限活かし、内科系・外科系のスタッフとの連携を図ることで、主に重症外傷や突然に発症した脳・心血管障害、集中治療管理を要する重症臓器不全といった重症救急患者さんを24時間体制で受け入れています。

また、和歌山県内には地理的条件により高次医療機関までのアクセスが困難な地域が多く、県全体の救急診療・地域医療を拡充するため、平成15年1月から国公立大学病院では初（全国では7番目）となるドクターヘリの運行を開始しています。



重症救急患者の救命率向上や後遺症軽減に貢献するドクターヘリ

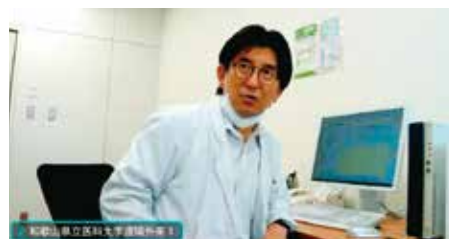
■ 地域医療支援センター

地域医療支援センターでは、地域医療枠学生（卒業後は主にへき地医療拠点病院等で勤務）及び県民医療枠学生（卒業後は主に県内公的病院で勤務）の在学中から卒業後9年間のキャリア形成を支援していく役割を担っています。そのため、医学部在学中からも、地域医療枠及び県民医療枠学生に対して、地域医療や保健行政への早期体験として県内外の医療機関等において夏季実習を実施するなど、地域社会に貢献できる医師の人材育成に取り組んでいます。

● 遠隔外来

地域医療支援センターでは、「遠隔医療支援システム（インターネット回線を利用したWeb会議システム）」により、当院と県内公立病院など（25医療機関）を結ぶネットワークを構築し「遠隔外来」を実施しています。

当院まで来院されなくても、お近くのシステム設置医療機関で当院専門医のアドバイスを受けることができます。



専門医がいない病院等でも、当院専門医によるアドバイスを受けることができる「遠隔外来」

● 遠隔救急支援

当院では、「遠隔救急支援システム」により、県内公立病院など（12医療機関）との間で救急医療に係る連携を図っています。救急患者のCT・MRIなどの検査画像を専用システムを利用して医療機関間で情報共有を行い、手術などの受入態勢を迅速に整えることで治療をより早く行うなど、救命や後遺症軽減につながる医療体制の強化を図っています。

■ 地域医療機関との連携（連携登録医制度）

当院では、地域医療機関と連携し、患者さんの入院から退院まで一貫して支援を行う「患者支援センター」を開設しています。センターでは、紹介患者さんのスムーズな受入や、当院で治療を行った患者さんが住み慣れた地域や適切な環境で療養が継続できるように在宅調整、転院・退院調整を行っています。

また、地域の医療機関と相互に協力して、患者さんが必要とする良質で適切な医療を提供するために「連携登録医制度」を実施しています。この制度には800名を超える医師・歯科医師が登録しており、お互いに連携しながら患者さんに最適な医療を提供しています。



800名を超える連携登録医は2階総合受付横にてご確認ください。

都道府県がん診療連携拠点病院

がんは、昭和 56 年に日本人の死亡原因第 1 位となり、現在では生涯のうち 2 人に 1 人ががんに罹患するといわれています。和歌山県では、昭和 54 年より死亡原因の第 1 位を占めており、全国平均に比べてがんで死亡する割合の高い県となっています。近年では改善傾向にありますが、男性の罹患率・死亡率が全国平均に比べて高い傾向があります。

当院は平成 19 年に国から「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けており、がん医療を重点課題としてその充実に取り組んでいます。

①高度ながん治療・研究

当院のがん治療は、手術治療・放射線治療・薬物療法を組み合わせた集学的治療を多職種によるチーム医療で提供しています。また、院内に「腫瘍センター」を設置し、集学的治療の推進や医療者の教育、さらにはがん登録を実施することでがん医療や施策の重要な指標となるデータ収集・分析にも取り組んでいます。

手術治療では、高度で低侵襲な手術が可能になる手術支援ロボット「ダヴィンチ」及び「hinotori」を導入しており、前立腺がんをはじめ、腎がん、膀胱がん、肺がん、食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、膵がん、子宮がん等の手術に使用されています。また、平成 26 年度には東棟に手術室を増室し、各診療科による高度な手術治療をより早く提供できるようになりました。

放射線治療では、多様ながん種に最適な放射線治療（外部照射、小線源治療）を実施しています。令和 5 年 7 月より最新型の強度変調放射線治療（IMRT）専用装置のラディザクトを導入し、現行のリニアック装置と合わせ、IMRT の 2 台体制となりました。

新しい薬が次々と開発され、進歩が著しい薬物療法では、科学的根拠（エビデンス）に基づく最新治療をより安全に提供できる体制を整備し、増加する薬物療法の需要に対応しています。

また、大学附属病院として各診療科が新しい診断や治療の研究・開発に取り組み、がん医療の発展に貢献しています。平成 26 年には院内に「臨床研究センター」を設置し、新しい治療・診断方法及び薬の開発に不可欠な臨床試験・治験の実施体制も強化しました。当院ではがん新薬治療開発のために、最新の国際共同ファーストインマン Phase1 治験を含めた早期試験（第Ⅰ相試験）から、多岐に亘る後期試験（第Ⅲ相試験）に至るまでの繋ぎ目のないシームレスな複数の各開発相新薬治験を大学病院内の各診療科において恒常的に実施しております。当院はがんゲノム医療の効率的な実装化を含めて、患者さんにより有効な治療を提供できるよう大学病院全体で尽力し、がん新薬開発促進と共に治療成績の向上に寄与するべくその充実に取り組んでいます。

● 治験に関するお問い合わせ

臨床研究センター治験管理部門 電話：073-441-0547（直通）

②がんゲノム医療

がんゲノム医療は、患者さんのがん細胞に起きている遺伝子の変化を調べて、患者さん一人ひとりの特徴に合わせた治療などを行う医療であり、次世代シーケンサーなどを用いてがん細胞の遺伝子を網羅的に調べ、がんと強く関わるドライバー遺伝子（がん制御に強い影響を有する遺伝子）などの「遺伝子異常に基づいた適切な薬剤選択」による治療等を行う医療です。検査／診断技術の進歩により、数十から数百個の遺伝子の異常を一度に調べる検査（網羅的がん遺伝子パネル検査）が開発され、日本では令和元年 6 月から、がん遺伝子パネル検査が保険適用されるようになり、保険診療のもとでがんゲノム医療が受けられるようになったことでゲノム医療の本格的な実用段階に入りました。



CT 技術を融合し、より正確な治療が可能になった強度変調放射線治療装置「ラディザクト」



質の高い抗がん剤治療を提供する外来薬物療法センター

当院においては平成 29 年 12 月に腫瘍センターの新規部門として「がんゲノム医療部門」が設立され、政府による「がんゲノム医療提供体制におけるがんゲノム医療中核拠点病院等」整備のなかで、当院は翌年の平成 30 年 4 月 1 日に厚生労働省により「がんゲノム医療連携病院」に指定されました。当院がんゲノム医療部門およびがんゲノム医療外来では、“臓器横断的”に大学病院内の専門的各診療科および部門、ならびにがんゲノム医療中核拠点病院である京都大学医学部附属病院をはじめ国内・海外の主要がん専門医療機関と協力・連携してがんゲノム医療を実施・推進しています。当院ではこれらのメリットを活用した最新のがんゲノム医療にもとづく治療・新薬の治験への参加推進・患者申出療養等の検討や、希少がん及び小児がんの対応も行っています。

③緩和ケアの提供

当院では、緩和ケアセンターを設置して様々な専門職がチームとして緩和ケアを提供し、がん患者さんの全人的な苦痛を和らげ、療養生活の質の向上を図っています。

患者さんの病態にあわせて 1) 積極的ながん治療を終えた患者さんの難治性症状緩和、在宅準備や終末期の入院を受け入れる緩和ケア病棟（3 床）ならびに緩和ケア緊急入院病床（2 床）の入院施設と、2) 一般病棟入院中でのがん治療を受けている患者さんの症状緩和・退院支援を援助する緩和ケアチーム、更に 3) 通院中のがん患者さんの症状緩和や療養生活の相談に応じる緩和ケア外来、がん看護相談外来があります。

また、令和 4 年 4 月から医療従事者からの緩和ケア・症状緩和などに関するお問い合わせに応じる HP を開設し、県内の医療従事者向けの緩和ケアセミナーを定期的開催、オンデマンドでの視聴も出来る体制を作りました。

④がん相談支援センター

看護師・社会福祉士が患者さんの治療や療養生活、就労など、がんによる様々な心配事や悩みをお伺いしています。相談は無料で、プライバシーは厳守します。また、匿名での相談も可能です。窓口は 2 階総合受付隣にあり、当院に入院されているときは病室にお伺いすることもできます。お気軽にご相談ください。

問い合わせ：がん相談支援センター（患者支援センター内）

電話：073-441-0778（直通）

受付時間：平日 9:00～17:00

⑤膵がんセンター

膵がんは部位別の死亡者数が近年胃がんを抜いて大腸がんについて 3 位となるなど、増加傾向にあります。自覚症状が出にくい、早期発見が難しく、がんの中でも特に難治といわれている病気です。

当院では膵がん治療に特化した組織として令和元年 9 月 1 日に膵がんセンターを開設し、関係する診療科が密に連携して膵がんの診療及び研究を行っています。

令和 3 年 2 月 1 日からは新たに膵がんドックを開設し、超音波内視鏡や MRI、腹部エコーなどを組み合わせた検診により、膵がんの早期発見・早期治療に力を入れています（連絡先は P38 をご覧ください）。



膵がんセンターにて実施している最先端の超音波内視鏡検査



緩和ケアセンターを中心に、外来・病棟・チームが早期からの緩和ケアを提供します。



がんゲノム医療部門

施設基準 1

■基本診療料

- 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- 歯科外来診療医療安全対策加算2
- 歯科外来診療感染対策加算4
- 医療DX推進体制整備加算5
- 特定機能病院入院基本料（一般病棟 7対1 入院基本料）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算3
- 医師事務作業補助体制加算1（20対1）
- 急性期看護補助体制加算（25対1）注2ハ 夜間100対1急性期看護補助体制加算、注3 夜間看護体制加算、注4 口看護補助体制充実加算
- 看護職員夜間配置加算（16対1配置加算1）
- 療養環境加算（一般病棟）
- 療養環境加算（精神病棟）
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算1
- 放射線治療病室管理加算1治療用放射性同位元素による治療の場合
- 緩和ケア診療加算
- 精神科応急入院施設管理加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算1
- 感染対策向上加算1（注2 指導強化加算）
- 患者サポート体制充実加算
- 重症患者初期支援充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 術後疼痛管理チーム加算
- 後発医薬品使用体制加算1
- 病棟薬剤業務実施加算1（注2 薬剤業務向上加算）
- 病棟薬剤業務実施加算2
- データ提出加算（加算2のイ）
- 入院院支援加算（加算1、加算3、地域連携診療計画加算、入院時支援加算）
- 認知症ケア加算（加算1）
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算（1）
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料1（注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算）
- 救命救急入院料2（注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算）
- 特定集中治療室管理料2（小児加算）
- 総合周産期特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料2（注2ロ 保育士2名 注7 養育支援体制加算）
- 精神科急性期治療病棟入院料1

■特掲診療料の施設基準

- ウイルス疾患指導料
- 外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
- 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
- がん患者指導管理料イ
- がん患者指導管理料ロ
- がん患者指導管理料ハ
- がん患者指導管理料ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料（臓器移植後）
- 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 小児運動器疾患指導管理料
- 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 二次性骨折予防継続管理料1
- 下肢創傷処置管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- 外来腫瘍化学療法診療料1
- 連携充実加算
- 外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
- がん治療連携計画策定料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- ハイリスク妊産婦連携指導料1
- ハイリスク妊産婦連携指導料2
- こころの連携指導料（Ⅱ）
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料1
- 医療機器安全管理料2
- 医療機器安全管理料（歯科）
- 歯科治療時医療管理料
- 救急患者連携搬送料
- 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2（緩和ケア）
- 在宅患者訪問看護・指導料の注16（同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。）に規定する専門管理加算（緩和ケア）

- 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
- 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
- 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
- 遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
- 骨髄微小残存病変量測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイリング検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体
- 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）
- 検体検査管理加算（Ⅳ）
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 人工臓器検査、人工臓器療法
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 単線維筋電図
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- 経気管支凍結生検法
- 精密触覚機能検査
- 画像診断管理加算1
- 画像診断管理加算2
- CT撮影及びMRI撮影（CT）
- CT撮影及びMRI撮影（MRI）
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- 心臓MRI撮影加算
- 乳房MRI撮影加算
- 小児鎮静下MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
- がん患者リハビリテーション料
- リンパ浮腫複合的治療料
- 集団コミュニケーション療法料
- 歯科口腔リハビリテーション料2
- 経頭蓋磁気刺激療法
- 通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算
- 認知療法・認知行動療法1
- 精神科ショート・ケア〔小規模なもの〕
- 精神科デイ・ケア〔小規模なもの〕
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧処置（慢性静脈不全に対するもの）
- 多血小板血漿処置
- 硬膜外自家血注入
- エタノールの局所注入（甲状腺）
- エタノールの局所注入（副甲状腺）
- 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）
- 導入期加算3及び腎代替療法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
- 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ストーマ合併症加算
- 手術用顕微鏡加算
- 歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
- CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- 歯科技工加算1及び2
- 皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
- 自家脂肪注入
- 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）（1次再建、2次再建）
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
- 椎間板内酵素注入療法
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
- 癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
- 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
- 角結膜悪性腫瘍切除手術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
- 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
- 網膜再建術
- 経外耳道の内視鏡下鼓室形成術

- 人工中耳植込術
- 植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。）
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
- 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
- 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
- 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
- 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）
- 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法（歯科診療に係るものに限る。）
- 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
- 乳がんセンチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
- 乳がんセンチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
- 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 内視鏡下筋層切開術
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 胸腔鏡下弁形成術
- 胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的冠動脈弁置換術）
- 胸腔鏡下弁置換術
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの））
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- 両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
- 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
- 植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
- 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極除去術
- 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
- 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）小児を除く
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
- 腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- 腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
- 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
- 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- 体外衝撃波胆石破碎術
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 体外衝撃波膵石破碎術
- 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下膵中央切除術
- 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術

- 腹腔鏡下痔体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 腹腔鏡下痔頭部腫瘍切除術
- 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 腹腔鏡下副腎摘出手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術（褐色細胞腫）（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- 腹腔鏡下腎盂形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- 精巣温存手術
- 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- 腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
- 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る）
- 医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る）
- 体外式膜型人工肺管理料
- 輸血管理料 I
- 輸血適正使用加算
- コーディネート体制充実加算
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- レーザー機器加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 歯周組織再生誘導手術
- 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- 歯根端切除手術の注3
- 口腔粘膜血管腫凝固術
- 麻酔管理料（I）
- 麻酔管理料（II）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 一回線量増加加算（全乳房照射）
- 一回線量増加加算（前立腺照射）
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 保険医療機関間の連携による病理診断
- 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
- 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
- 病理診断管理加算2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- クラウン・ブリッジ維持管理料
- 歯科矯正診断料
- 顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）
- 看護職員処遇改善評価料58
- 外来・在宅ベースアップ評価料（I）
- 歯科外来・在宅ベースアップ評価料（I）
- 入院ベースアップ評価料89

■入院時食事療養・入院時生活療養費

- 入院時食事療養／生活療養（I）

（令和8年1月1日現在）

診療科ご案内

糖尿病・内分泌・代謝内科

概要

当科では、糖尿病などの代謝疾患をはじめ、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患、下垂体腫瘍などの下垂体疾患、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの副腎疾患、副甲状腺疾患や骨軟化症などの骨代謝疾患、さらに脂質異常症、高尿酸血症など、幅広い疾患を診療しています。また、肥満症に対する専門治療も実施しています。いずれの疾患も合併症・併発症を引き起こす可能性が高く、早期からの治療が求められます。検査法・治療薬は日々進歩しており、例えば糖尿病の血糖管理については、①持続血糖測定モニター、②センサー付きインスリンポンプ療法（図1）、③人工臓器といった最先端の技術を取り入れ、より高度な治療を行うことができます。

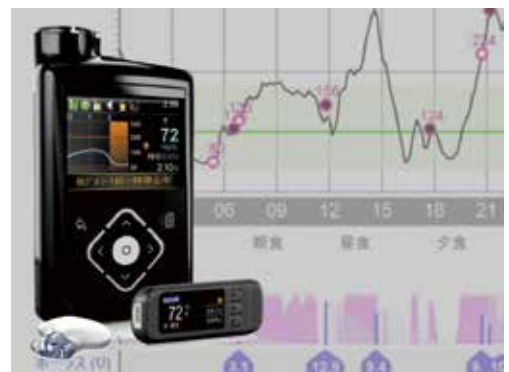


図1：センサー付きインスリンポンプ療法における血糖モニタリング

専門分野

糖尿病（教育入院、腎症、神経障害、動脈硬化症、糖尿病性足病変、脂質異常症、低血糖症）、内分泌・代謝疾患（甲状腺・下垂体・副腎・副甲状腺疾患、肥満症、脂質代謝異常症）

診療実績

糖尿病 4,300 例、甲状腺疾患 2,800 例、下垂体疾患 450 例、副腎疾患 640 例、副甲状腺疾患 130 例、脂質代謝異常 1,600 例、肥満症 180 例



当科では糖尿病・内分泌・代謝疾患に対してより専門的で確かな治療を心掛けています。

消化器内科

概要

当科は、消化器疾患の診療を行っています。消化管・肝臓・胆膵の3診療グループを設けて対応しており、全領域においてトップクラスの実績があります。関連施設などから主として「がん」の患者さんが多く集まっており、「がん治療」に多くの精力を傾けております。また、炎症性腸疾患、逆流性食道炎、胃潰瘍、急性膵炎、総胆管結石等の良性疾患に対しても新しい薬の治験や診療技術の開発を含めて、最先端治療を実践しています。

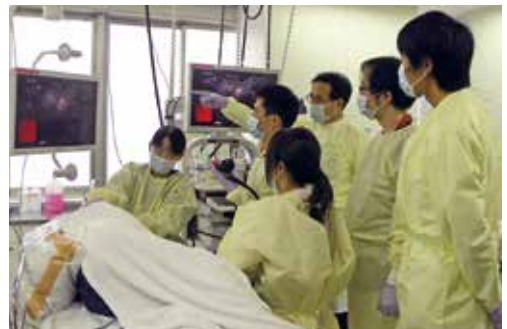
さらに、内視鏡・超音波を用いた新規診断・治療技術の開発、消化器疾患診療の地域医療連携システムの構築にも力を注いでいます。

専門分野

消化管（食道・胃・十二指腸・大腸）、肝臓・胆道・膵疾患、消化器内視鏡診断、超音波診断、カプセル内視鏡、バルーン小腸内視鏡、食道癌・胃癌・大腸癌などに対する内視鏡的切除術、消化器癌に対する化学療法・放射線療法、食道静脈瘤の治療、胃瘻造設術、ERCP、超音波内視鏡診断、超音波内視鏡下穿刺吸引生検、肝癌に対するラジオ波・マイクロ波焼灼術、内視鏡的胆道ドレナージ、超音波内視鏡下胆道ドレナージ、食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術、膵神経内分泌腫瘍に対する超音波内視鏡下エタノール注入術、胆道癌に対する内視鏡的ラジオ波焼灼術など

診療実績

上部消化管内視鏡治療 約 200 件、大腸内視鏡治療 約 300 件、超音波内視鏡 約 2,500 件、ERCP 約 750 件、肝癌ラジオ波・マイクロ波焼灼術 約 100 件



消化器内科での最先端の内視鏡治療風景、多数の内視鏡専門医が一緒になって治療に携わっています。

呼吸器内科・腫瘍内科

概要

呼吸器内科としては、気管支喘息・COPD・（膠原病肺を含む）間質性肺炎などの幅広い疾患に対する診療を行っており、各疾患の専門家を中心に吸入薬の新規合剤・気管支喘息に対する新規抗体薬・間質性肺炎に対する抗線維化薬などを積極的に導入しています。

腫瘍内科としては、肺癌・原発不明がんにおける国内の先端施設の一つですが、最近では軟部肉腫や乳がんの薬物療法も行っています。これまで臨床研究を通じて新規薬剤の開発に積極的にかかわり、結果として最近承認された多くの薬剤の臨床試験で重要な役割を果たしています。

両者にまたがる領域として、呼吸器内視鏡検査では県内一のアクティビティを誇り、採取した検体を用いて、次世代シーケンサーによるがんの網羅的な遺伝子変異解析など最先端の臨床を行っています。



専属の細胞検査士が気管支鏡検査に立会い、肺がんの迅速細胞診を行っています。

専門分野

肺癌、喘息、COPD、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、原発不明がん・乳がん・肉腫の薬物療法など

診療実績

入院 総数 1,100 例（腫瘍 70%、感染症・びまん性肺疾患各 10%）、気管支鏡検査 約 500 例、胸腔鏡検査 約 30 例

循環器内科

概要

当科は、心臓血管疾患領域における超音波、光干渉断層法(OCT)、コンピュータ断層撮影(CT)、磁気共鳴画像(MRI)などの最先端画像診断や生理学的心筋虚血評価などを駆使した診療を提供しています。

また、急性心筋梗塞や狭心症に対するカテーテルインターベンション治療(PCI)、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル大動脈弁留置術(TAVI)、卵円孔開存(PFO)に対するカテーテル閉鎖術、機能的僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術(マイトラクリップ)、各種不整脈に対するカテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み手術(リードレスペースメーカー含む)、植え込み型除細動器(ICD)植え込み手術、また、原因不明の失神に対する植え込み型心臓モニタ(ICM)の植え込み手術、高血圧に対する腎デナベーション治療など高度先進医療を提供します。

専門分野

高血圧、狭心症、心筋梗塞、不整脈、アブレーション、ペースメーカー、弁膜症、心不全、心筋症、動脈瘤、血管炎、閉塞性動脈硬化症、肺高血圧症、肺塞栓症、成人先天性心疾患、大動脈解離

診療実績

急性心筋梗塞 197 例、緊急 PCI 170 件、待機的 PCI 207 件、TAVI 112 件、マイトラクリップ 21 件、PFO 閉鎖術 3 件、カテーテルアブレーション 268 件、ペースメーカー新規 66 件(リードレスペースメーカー 32 件)、ICD 14 件(S-ICD 3 件)、リード抜去術 2 件、ICM 9 件



カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)は、ハイブリッド手術室にて心臓血管外科、麻酔科と合同で実施しています。

腎臓内科／血液浄化センター

概要

当科は、健診や学校検尿から始まる腎臓病の診断治療や、腎不全期の管理、透析導入、維持透析管理、腎移植管理など、腎臓病に関するすべてのステージの総合診療を行っています。常に最新知見による治療を心がけ、腎臓病の寛解、透析導入遅延のみならず、心血管病をはじめとした腎不全合併症を進行させないような管理を行っています。和歌山県及び泉南地域の充実した腎臓病診療体制確立を目指しています。

血液浄化センターでは同時に 16 例の血液透析施行が可能であり、それ以外にもアフエーシス治療なども施行しています。



腎生検を積極的に行い、尿潜血や尿蛋白、腎機能低下の原因を特定し、治療へ繋がります。

専門分野

慢性腎炎症候群、急性腎炎症候群、高血圧、糖尿病関連腎臓病、多発性のう胞腎、急速進行性糸球体腎炎、膠原病に関連した腎臓病、移植腎、急性腎障害、多臓器不全、各種血液浄化法、アフエーシス療法

診療実績

腎生検施行 82 例、透析導入 69 例、持続腎代替療法 56 例、アフエーシス療法 31 例(217 件)、バスキュラーアクセス手術 101 件

血液内科

概要

私たちの使命は「和歌山県の血液診療を牽引すること」であると考え、二つのことを心がけています。一つは「同種造血幹細胞移植を確実に提供すること」で、当科では殆どの同種造血幹細胞移植が施行可能です。もう一つは「幅広い血液疾患を診療すること」です。当科が血液疾患でお困りになっている患者さんや医療関係者にとって心強い存在でありたいと考えています。チーム医療を大切に、患者さんから当科で診療を受けてよかったと思って頂けるよう努力しています。



医師・看護師・薬剤師・移植コーディネーターが参加して移植患者さんの診療を検討しています。

専門分野

血液疾患（貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血・凝固異常）、輸血による副作用、造血幹細胞移植

診療実績

新規外来患者数 512 人。新規入院患者内訳は急性骨髄性白血病 24 例、急性リンパ性白血病 7 例、骨髄異形成症候群 5 例、悪性リンパ腫 51 例、多発性骨髄腫 13 例。

同種造血幹細胞移植 16 例（血縁骨髄移植 0 例、血縁末梢造血幹細胞移植 11 例、非血縁骨髄移植 3 例、非血縁末梢造血幹細胞移植 1 例、臍帯血移植 1 例）

脳神経内科

概要

脳神経内科では頭痛・めまい・しびれ・ふらつき・物忘れ・力が入りにくい・歩きにくいといった症状でお困りの患者さんの診療に当たっています。

高齢社会を迎えた現在、脳神経内科疾患を有する患者さんの数は増加する一方ですので、日々の臨床活動に意欲的に取り組んでいます。特に、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症など神経難病や、神経免疫疾患の患者さんの治療や生活の質（QOL）の向上に対して、全力で取り組んでいます。



症例カンファレンスを行い、病気の診断・治療について検討しています。

専門分野

パーキンソン病及び関連疾患、運動ニューロン疾患、脳血管障害、神経免疫疾患、末梢神経・筋疾患、髄膜炎・脳炎、頭痛、運動失調・歩行障害、認知症、言語障害、けいれん

診療実績

初診外来患者数は年間 600 人以上。再来外来患者数は年間約 12,000 人。入院患者はパーキンソン病及び関連疾患、ALS をはじめとした運動ニューロン疾患などの変性疾患、筋疾患、末梢神経障害、神経免疫疾患、中枢神経感染症、認知症疾患、代謝性神経疾患、脳梗塞、脊髄梗塞といった血管障害など。

リウマチ・膠原病内科 / リウマチ・膠原病センター

概要

リウマチや膠原病は、関節の痛み、発熱、発疹、など複数の症状が体全体に広がる「全身性自己免疫疾患」です。個々によりその症状や重症度、治療法が大きく異なることが特徴で、その症状に適した治療法を専門科ならではの技術と知識で正確に診断し、また他の科と連携することで、総合的な治療を提供しています。

また、地域の先生方と連携を行いながら、「和歌山県におけるリウマチ・膠原病の中心施設」としての役割を担ってまいります。



当科はリウマチ・膠原病の専門診療に関し入院加療が可能な和歌山県内唯一の施設です。最新の治療薬・治療推奨に基づいた積極的な治療を行っています。

専門分野

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、全身性血管炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、脊椎関節炎、ベーチェット病、再発性多発軟骨炎、リウマチ性多発筋痛症、成人発症スチル病、回帰性リウマチ、何週間も持続する原因不明熱（38℃以上）、全身倦怠感、原因不明の関節痛、筋肉痛、皮膚症状

診療実績

2025年1月～12月の入院診療実績 関節リウマチ 115例、関節リウマチ以外の膠原病（全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、混合性結合組織病、シェーグレン症候群）193例、その他のリウマチ性疾患（ベーチェット病、成人発症スチル病）6例

小児科

概要

和歌山県の小児の専門医療を担っています。①超未熟児などを治療する新生児グループ、②川崎病、先天性心疾患を治療する心臓グループ、③白血病や固形腫瘍に対して骨髄移植を含めた治療を行う血液グループ、④各種腎疾患の診断治療と研究を行う腎臓グループ、⑤難治性てんかんから摂食障害などの思春期治療まで幅広く治療を行う神経グループ、⑥炎症性腸疾患や過敏性腸症候群、肝炎や先天性代謝性肝疾患の診断・治療を行う消化器肝臓グループの6つの専門グループに分かれ、それぞれ専門医が最先端の知識と技術を駆使して診断・治療にあたっています。



“医学は厳しく、医療は暖かく”をモットーに和歌山県の小児医療に取り組んでいます。

専門分野

小児の全疾患（外傷・外科的処置を除く）、新生児疾患、腎臓疾患、先天性心疾患、川崎病、てんかん、発育・発達障害、内分泌、先天・染色体異常、血液疾患、固形腫瘍、消化管疾患、肝疾患

診療実績

NICU 173例（うち極低出生体重児 27例（超低出生体重児 13例を含む）、血液悪性腫瘍 28例（疾患内訳：造血器腫瘍 11例、固形腫瘍 17例、うち同種造血幹細胞移植 2例、終末期医療 1例）、非腫瘍性血液疾患 14例、循環器疾患 110例（うち先天性心疾患手術症例 36例、心臓カテーテル検査 50例、カテーテルインターベンション 9例）、川崎病 28例、神経疾患・痙攣性疾患など多数、摂食障害外来多数、入院 24例、急性脳症・脳炎 8例、腎疾患 27例（うち腎生検 10例）疾患内訳：ネフローゼ 7例、慢性腎炎 11例、腹膜透析 2例、急性腎炎 1例、AKI（急性腎障害）2例、尿路感染症 5例、炎症性腸疾患 17例、機能的消化管疾患 30例、慢性肝疾患 10例、膵臓疾患 2例、消化器肝臓検査（上部消化管内視鏡 15件、下部消化管内視鏡 21件、小腸カプセル内視鏡 18件、ファイブロスキャン 20件、pHインスピーダンスモニター 5件、アレルギー負荷試験（食物）8例

神経精神科

概要

神経精神科では、気分障害、統合失調症、神経発達症、てんかんをはじめとする精神障害全般、要手術・要透析患者、妊婦および摂食障害などの精神科身体合併症、さらには認知症疾患センターや緩和ケアチームなど他科との連携医療をはじめ、うつ病の復職支援プログラム（リワーク）、修正型電気けいれん療法、クロザリル療法（難治性統合失調症を対象）、反復経頭蓋磁気刺激治療（治療抵抗性うつ病を対象）などの県下では大学病院でしか行うことができない専門的な診療を実践しています。



こころと脳科学の融和を目指し、幅広く患者さんのニーズに応えられるよう努力していきます。

専門分野

気分障害、統合失調症、認知症、身体疾患に伴う精神障害、摂食障害、不安障害、てんかん、依存症、発達障害など

診療実績

気分障害 173 例、統合失調症 91 例、認知症や身体疾患に伴う精神疾患 329 例、摂食障害や不安障害 304 例、神経発達症 100 件、その他 209 例

心臓血管外科

概要

心臓血管外科では虚血性心疾患、弁膜症、胸部・腹部大動脈疾患、末梢動静脈疾患、先天性心疾患など様々な領域の治療を行っています。近年手術の低侵襲化が進んでおり、従来行われてきた胸骨正中切開での手術のほかに、右小開胸での弁膜症手術（MICS：minimally invasive cardiac surgery）を行っています。MICS-AVR（大動脈弁置換）、MICS-MVP（僧帽弁形成）以外にも、ロボット支援下の僧帽弁形成術や左開胸での MICS - CABG（冠動脈バイパス術）を行っています。また血管疾患では Stent graft などの血管内治療の割合が高くなっており、“切らずに治療する”ことも可能となっています。従来の手術と比較して痛みが軽減されるため、多くの患者さんが早期退院、社会復帰が可能となっています。



人工心肺を用いた開心術で緊急手術にも対応しています。

専門分野

虚血性心疾患、弁膜疾患、大動脈疾患、末梢動静脈疾患、先天性心疾患

診療実績

虚血性心疾患 70 例、弁膜疾患 165 例（TAVI 含む）、大動脈疾患 160 例、末梢動脈疾患 100 例、先天性心疾患 30 例

呼吸器外科・乳腺外科

概要

呼吸器外科では、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸など呼吸器疾患全般について外科診療を行っています。県内では多施設に先駆けて完全胸腔鏡下手術やロボット支援下手術（ダヴィンチ手術）を導入し、傷の小さい体の負担の小さい手術を積極的に行っています。現在約70%をこれらの低侵襲手術で行っており、負担の小さい手術に対する社会的ニーズに応えています。あらゆる場面で呼吸器内科や放射線治療部と緊密に連携しており、「呼吸器チーム」として切れ目のない診療を提供しています。

乳腺外科では、一般的な診断、手術、薬物療法のみならず、dose-dense 化学療法や術前化学療法を積極的に実施しています。また、拡大広背筋皮弁や、シリコンを使用した乳房再建により整容性に配慮した手術も多数例に実施しています。



肺がんに対して最新のロボット支援下手術を積極的に導入しています。

専門分野

呼吸器外科（肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸）、乳腺外科（乳癌、良性乳腺腫瘍、乳腺症、乳腺炎）

診療実績

原発性肺癌 120 例、転移性肺腫瘍 32 例、気胸・膿胸 36 例、乳癌 200 例、その他乳腺 30 例

消化器・内分泌・小児外科

概要

当科では食道・胃・大腸・直腸・肝臓・胆道・膵臓などの悪性腫瘍に対する外科手術と小児外科手術を中心に行っています。消化器癌手術件数は全国有数のハイボリュームセンターであり、最先端、高難度の手術を安全に実施しています。食道・胃・大腸癌は原則として全症例を低侵襲手術（ロボット支援手術もしくは腹腔鏡手術）で施行しており、高難度である肝胆膵外科手術においても積極的に低侵襲手術を導入しています。現在、日本内視鏡外科学会技術認定医 9 名、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医 3 名が在籍しており、全国トップクラスの手術件数と専門スタッフを基盤に、万全の教育・研究・診療のすべてにおいて充実した体制を整えています。



胃がんに対する最新のロボット支援下手術を実施しています。

専門分野

消化器外科（食道・胃・大腸・直腸・肛門・肝臓・胆嚢・胆道・膵臓・脾臓などの消化器疾患・消化器がん、胆石症などの良性疾患）、小児外科、新生児外科、内分泌外科、開腹手術・腹腔鏡下外科手術、内視鏡治療・内視鏡手術にて幅広く対応

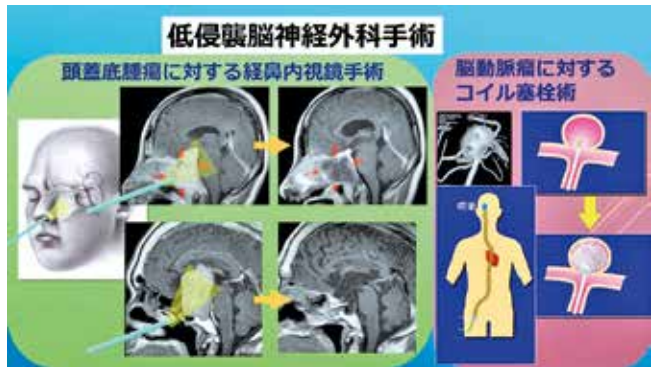
診療実績

食道癌手術件数 35 例、胃癌手術件数 160 例、大腸（直腸）癌手術件数 211 例、膵手術件数 89 件、肝手術件数 96 件、小児外科手術件数 129 例

脳神経外科

概要

脳神経外科は主として脳腫瘍、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、三叉神経痛や顔面痙攣、さらにパーキンソン病をはじめとする不随意運動などの疾患に対して、常に最新の診断・治療技術を導入して治療を行っております。たとえば、脳腫瘍の治療では、脳深部や頭蓋底の病変に対する難易度の高い手術でも、神経内視鏡を応用して低侵襲脳神経外科手術と安全性の向上を図っております。脳卒中の治療では、血管内治療を積極的に導入することにより、手術では到達困難な脳動脈瘤のコイル塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置も数多く行っています。



神経内視鏡を応用した低侵襲脳神経外科手術と血管内治療による脳動脈瘤のコイル塞栓術

専門分野

脳腫瘍、頭蓋底腫瘍、下垂体腫瘍、脳血管障害（くも膜下出血・脳出血・脳梗塞）、機能的脳神経外科（てんかん、パーキンソン病、三叉神経痛、顔面痙攣）、頭部外傷、脊椎・脊髄外科、小児脳神経外科（水頭症、二分脊椎）血管内治療

診療実績

脳腫瘍 120 例、脳血管障害（脳卒中） 650 例、頭部外傷 120 例

整形外科

概要

当科では多岐にわたる運動器疾患に対応できるよう、脊椎脊髄外科、スポーツ・関節外科、骨・軟部腫瘍外科、手の外科、小児整形外科の各分野に専門スタッフを配置しています。脊椎変性疾患、脊柱変形、脊椎脊髄腫瘍、脊椎脊髄損傷、骨粗鬆症、関節変性疾患、四肢外傷、関節リウマチ、スポーツ外傷・障害、四肢の先天異常、絞扼性末梢神経障害、切断指肢、骨軟部腫瘍、小児整形外科疾患、四肢成長障害などの疾患に対して専門スタッフが診断・治療を行っています。脊椎内視鏡下手術を代表とする低侵襲手術の研究・開発そして実施に取り組み、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医 8 名が中心となり脊椎内視鏡手術を数多く行っています。現在は脊椎内視鏡手術に加え、低侵襲固定術を用いた腰曲がり（変性後側弯症）の治療や、低侵襲な人工関節置換術などを行っています。また人工膝関節置換術においてはロボット手術を導入し、従来よりもより正確にそして短時間での手術を実現しています。



O-arm イメージングシステムを導入し、脊椎・脊柱などの手術を正確かつ低侵襲に行っています。

専門分野

脊椎・脊髄疾患、側弯症、四肢外傷、関節疾患、小児整形外科、骨軟部腫瘍、手外科、関節リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ整形外科

診療実績

脊椎手術 426 件、（脊椎内視鏡手術 203 例、脊柱変形手術 39 例、その他 184 例）、人工股関節手術 79 例（再置換術 11 例）、人工膝関節手術 63 例（再置換術 2 例、ロボット手術 50 例）、手外科 53 例、骨軟部腫瘍 11 例

形成外科

概要

形成外科とは、先天的または後天的に生じた身体の変形や欠損を機能面のみならず整容面にも配慮し治療を行う診療科です。

対象患者は新生児から高齢者まで幅広く、診療内容は多岐にわたっています。具体的には、熱傷、顔面や手足の外傷、口唇口蓋裂などの先天異常、腫瘍切除後の再建、難治性潰瘍、リンパ浮腫（手足のむくみ）などがあります。治療は形成外科的な様々な手技を用いて、患者さんの生活の質の向上に寄与します。



下肢リンパ浮腫に対する治療
顕微鏡下に、リンパ管静脈吻合術（側端吻合）を行っています。

専門分野

外傷（重度四肢外傷、顔面骨骨折、熱傷）、腫瘍（皮膚悪性腫瘍、脂肪腫、血管腫）、潰瘍（難治性下腿潰瘍）、先天性疾患（口唇口蓋裂、多指症）、瘢痕（外傷後瘢痕、ピアス孔ケロイド）、炎症・その他（眼瞼下垂症、眼瞼内反症、リンパ浮腫）を中心に治療を行っています。

診療実績

外傷 218 件、腫瘍 312 件、潰瘍 28 件、先天性疾患 57 件、瘢痕 30 件、炎症・その他 198 件

泌尿器科

概要

泌尿器科は、尿路や男性生殖器に発生する疾患を扱っています。泌尿器腫瘍、尿路結石症、腎移植、排尿障害、尿路感染症、小児泌尿器科の各領域において高い専門性をもったスタッフが診療にあたっています。当科ではロボット支援手術を先進的に導入し、これまでに約 1,800 件の経験を積み重ねており、2023 年以降は泌尿器腫瘍の手術はほぼすべてロボットで行っています。本年からは骨盤臓器脱に対するロボット支援手術も開始します。



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いて、安全で最先端の手術を実施しています。

専門分野

泌尿器腫瘍（副腎腫瘍、腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん）、尿路結石症、腎移植、排尿障害、尿路感染症、小児泌尿器科、婦人泌尿器科、ロボット支援手術、尿路内視鏡手術、体外衝撃波結石破砕術

診療実績

ロボット支援手術（副腎腫瘍 13 例、腎がん 57 例、腎盂尿管がん 21 例、膀胱がん 23 例、前立腺がん 72 例）、尿路内視鏡手術（尿路結石 124 例、膀胱がん 102 例、前立腺肥大症 23 例）、腎移植 10 例

産科・婦人科

概要

「県内でお産難民、がん難民をつくらない」をモットーに、最高レベルの医療を提供できるよう努力しています。

産科では県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・分娩時大出血など24時間対応しており、ドクターヘリによる母体搬送も可能です。

婦人科では、あらゆる婦人科がん患者を受け入れ、他科とも協力して高難度手術や放射線・化学療法などの最新の治療を提供しています。婦人科良性疾患や一部の子宮悪性腫瘍に対しては腹腔鏡手術（ロボット手術を含む）も数多く行っています。



産科救急シミュレーション・ALSOの様子。救急に備え日々トレーニングしています。

専門分野

妊婦健診、正常分娩、流早産、合併症妊娠、子宮筋腫、子宮内膜症、骨盤外科、子宮脱、婦人科がん（子宮がん、卵巣がん等）、絨毛性疾患（胎状奇胎、絨毛がん）

診療実績

子宮筋腫 約 80 例、子宮頸癌（上皮内癌含む）約 50 例、子宮体癌 約 40 例、卵巣腫瘍（良性）約 50 例、卵巣腫瘍（悪性）約 30 例

眼科

概要

当科の手術件数は年間約 2,000 件で、白内障手術は約 1,000 件、網膜硝子体手術は約 300 件、緑内障手術は約 50 件施行しています。日帰り手術は白内障が主体ですが、平成 21 年より日帰り硝子体手術を積極的に導入し、黄斑前膜など症例を選択することで安全に施行することが可能となりました。現在では硝子体手術の約 2 割を日帰りで行っています。

当院に導入された Ngenuity®3D Visualization System は、HDR (High Dynamic Range) ビデオカメラで撮影した映像を高画質化し、専用の大画面モニターに表示することで、術中に眼組織を立体的にリアルタイムで詳細に観察しながら手術が可能です。デジタル画像の利点を生かして、患者さんの術中のまぶしさの軽減や、術野の色調やコントラストを調整することにより、これまで以上に安全で確実な手術を提供することができるようになりました。また、教育面においても絶大な効果を発揮しております

専門外来として角膜外来、緑内障外来、黄斑外来、斜視外来、神経眼科外来、ぶどう膜炎外来などを設置し、患者さんの待ち時間が短縮できるよう努力しています。

専門分野

白内障、緑内障、網膜剥離や糖尿病性網膜症等の網膜硝子体疾患、斜視・弱視、未熟児、神経眼科、角膜・ぶどう膜炎疾患、涙道疾患、がん腫瘍の治療

診療実績

白内障手術 約 1,000 例、網膜硝子体手術 約 300 例、緑内障手術 約 50 例



Ngenuity®3D Visualization System を用いた手術風景

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部（首から上）のがんと聴覚や平衡覚などの感覚、音声や嚥下の機能を治療する診療科です。

頭頸部がん（舌・口腔、咽頭、喉頭、甲状腺などのがん）には再建手術をはじめ抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行います。また、人工内耳など聴覚改善手術や、鼻内視鏡手術、顕微鏡での声帯手術などを行います。腫瘍と感覚・機能の外科専門科として、患者さんの生命とQOLを守る高度な医療の提供を目指します。



耳・鼻・のどの機能改善、頭頸部がんの患者さんのQOL改善を目指し、高度な医療を提供します。

専門分野

頭頸部がん再建手術、甲状腺・副甲状腺手術、中耳手術（鼓室形成術、アブミ骨手術）、人工内耳埋め込み手術、小児難治性中耳炎の治療、鼻内視鏡手術、音声改善手術、喉頭微細手術、扁桃低侵襲手術、睡眠時無呼吸症候群の治療

診療実績

耳科手術（鼓室形成手術、鼓膜形成手術、アブミ骨手術、人工内耳植込術、顔面神経減荷術など） 243 例、鼻副鼻腔手術（慢性鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍など） 260 例、頭頸部悪性腫瘍（舌、口腔、咽頭、喉頭、鼻副鼻腔、唾液腺手術および頸部郭清術）および頭頸部良性疾患（舌・口腔腫瘍、頭頸部腫瘍、頭頸部感染症など） 187 例、扁桃・アデノイド手術など 170 例、甲状腺副甲状腺良性疾患（甲状腺腫瘍、パセドウ病など） 31 例、甲状腺悪性腫瘍 34 例、気管切開術 60 例

皮膚科

概要

皮膚科は、頭（髪の毛）から、足（爪）まで体表面の全てが守備範囲です。

当科では、アトピー性皮膚炎、膠原病、尋常性乾癬などの全身皮膚疾患や皮膚腫瘍、母斑（あざ）など外科的手術を必要とする皮膚疾患を中心に、治療を行っています。最近では、抗体製剤、生物製剤、分子標的薬を積極的に使用し、有効で安全な治療方法を選択しています。

ボトックス治療・ケミカルピーリング・レーザー治療の一部は自費診療で紹介状・予約が必要です。



専門分野

アトピー性皮膚炎、アレルギー、自己炎症性疾患、膠原病、良性及び悪性腫瘍の皮膚外科、皮膚がんへの薬物療法・免疫療法・免疫チェックポイント阻害薬療法、美容皮膚科（ケミカルピーリング、レーザー、ボトックス）、保険診療レーザー治療、紫外線治療、乾癬、脱毛症、メディカルメイク

診療実績

皮膚良性腫瘍 115 例、皮膚悪性腫瘍 86 例、湿疹・皮膚炎群 82 例

歯科口腔外科

概要

歯科口腔外科は、歯・顎口腔領域の炎症、外傷、先天異常・発育異常や腫瘍性疾患など多種多様な疾患を治療する診療科です。

口腔は、食べる、話すといった QOL に直結する機能を有するため、これら口腔機能を念頭に置いた治療が要求されます。そのため、標準治療をベースとした診療体制に加えて関連診療科との密な連携を図る事により、安心安全で高度な診療を実践します。さらに、歯科口腔外科疾患以外に対しても、口腔ケア等による患者さんの口腔機能の維持、改善に努めてまいります。



疾患に応じて 3D 模型による術前シミュレーションを導入しています。

専門分野

歯・顎口腔領域の炎症・外傷・腫瘍・嚢胞、顎変形症、口腔がん、口唇口蓋裂、口腔インプラント、顎関節疾患、歯・歯周組織外科、三叉神経障害、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、口腔心身症

診療実績

智歯周囲炎・埋伏歯 733 例、顎変形症 28 例、口腔顎顔面外傷 65 例、口腔顎顔面炎症 117 例、顎関節症 112 例、口腔がん 34 例、顎口腔良性腫瘍 91 例

放射線科

概要

当科の放射線診療は画像診断、画像下治療 (IVR)、放射線治療の 3 つの柱から成り立っています。

画像診断では心臓の冠動脈 CT や乳癌のダイナミック MRI、IVR では肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術 (TACE)、胃静脈瘤のカテーテル治療 (BRTO)、胸腹部大動脈瘤のステントグラフト内挿術 (TEVAR/EVAR)、子宮筋腫の子宮動脈塞栓術 (UAE)、放射線治療では、通常のリニアック治療に加えて Radixact を用いた頭頸部や骨盤部腫瘍の強度変調放射線治療 (IMRT)、前立腺癌や子宮頸癌の小線源治療などを行っています。



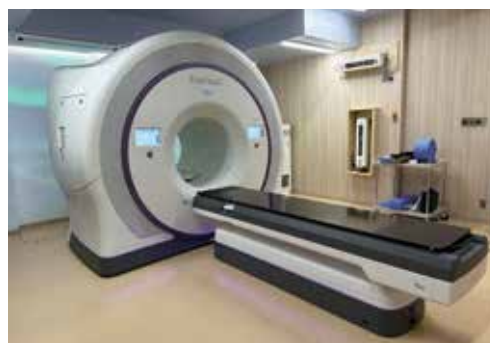
2024 年 1 月に導入された 320 列 IVR-CT は画像下治療 (IVR) に役立っています。

専門分野

肝細胞がん、胃静脈瘤、胸腹部大動脈瘤、子宮筋腫などに対する IVR 治療、肺がん、乳がん、骨転移、頭頸部がん、脳腫瘍、前立腺がん、子宮がんなどの悪性腫瘍に対する放射線治療

診療実績

IVR 治療 613 例 (TACE 50 例、BRTO 10 例、TEVAR/EVAR 87 例、緊急 IVR 99 例)、放射線治療 700 例 (IMRT 389 例、定位照射 93 例、小線源治療 111 例)



2023 年 7 月から稼働を開始した Radixact は IMRT 専用機で、副作用の低減が可能です。

リハビリテーション科

概要

リハビリテーション科は全ての疾患や障害による活動性を改善することを目的とし、「患者さんをよくする」積極的なリハビリテーション治療を行っています。脳血管疾患や運動器疾患などに対する歩行や日常生活動作の確立だけではなく、手術前後のリハビリテーション治療や集中治療室での早期リハビリテーション治療、痙縮治療としてのボツリヌス療法や神経ブロック、障害のある方の在宅生活での機能低下に対する短期集中強化リハビリテーション治療など、専門療法士と一丸となって行います。嚥下障害、失語症、その他の高次脳機能障害、そして義肢装具等に対しても総合的に取り組みます。

専門分野

脳血管疾患、脳外傷、脊髄損傷、脊椎疾患、骨関節疾患、関節リウマチ、脳性麻痺、神経・筋疾患、切断、呼吸器・循環器疾患、悪性腫瘍、熱傷、廃用症候群、骨粗鬆症、褥瘡、スポーツ障害、障がい者スポーツ、運動療法、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害、排尿・排便障害、義肢・装具・生活補助具、福祉

診療実績

脳血管疾患（脳卒中、脳腫瘍、神経変性疾患など） 1,556 例、運動器疾患（変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症など） 1,882 例、呼吸器疾患（肺炎、閉鎖性肺疾患、周術期など） 1,986 例、心大血管疾患（虚血性心疾患、心不全、末梢動脈疾患など） 876 例、がん（消化器がん、血液がん、頭頸部がんなど） 474 例、廃用症候群 172 例



医師・療法士・義肢装具士が連携して必要な装具療法を検討します。

救急科 / 救急・集中治療部 / 高度救命救急センター

概要

高度救命救急センターは、重症外傷や突然に発症した脳・心血管障害、集中治療管理を要する重症臓器不全等に対して、多くの病院スタッフと集中治療室、救急病棟を備えた診療施設です。限られた病床で重症患者さんに 24 時間対応するためには、院内の各専門診療科はもとより、地域全体の急性期・慢性期それぞれの医療機関との連携が不可欠なので、地域の医療機関にご協力いただきながら、三次救急医療機関の責務を果たしています。



ドクターヘリも活用し救急医療・災害医療・地域医療などに広く従事しています。

専門分野

ショック・CPAOA・急性呼吸不全・急性循環不全・慢性疾患急性転化などの各種緊急病態
外因性疾患：多発外傷（各臓器 / 骨軟部脊椎損傷）、重症熱傷、急性中毒、異物窒息、溺水、熱中症、低体温症、減圧症など
内因性疾患：重症感染症、脳血管障害、内分泌代謝障害、急性肺障害、急性冠症候群、肝不全、腎不全、重症肺炎、腸管壊死、大量出血（吐下血・咯血・腹腔内 / 後腹膜出血など）、脊椎・神経筋疾患など

診療実績

救急外来受診患者 12,469 人、ICU 入室患者 811 人、ドクターヘリ出動件数 559 件、救急外来手術 282 件、IVR 40 件、救急整形外科手術 230 件、重症外傷（ISS16 以上） 193 件、内視鏡 144 件

麻酔科

概要

臨床麻酔を中心に、ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩をカバーしています。

臨床麻酔では、新生児から高齢者まで、そして救急疾患・外傷疾患から悪性腫瘍症例まであらゆる症例の麻酔管理を行っています。年間6,000件以上の手術症例の麻酔管理を担当し、最新の超音波機器・生理モニターを用いて、安全で質の高い麻酔管理に取り組んでいます。また、手術中のみならず、術後の痛み管理にも積極的に取り組んでいます。



各種生理機能に加え、経食道心エコーを導入し、安心で質の高い麻酔管理を行っています。

専門分野

周術期管理、ペインクリニック（痛みの治療）、神経ブロック法、薬物療法、電気刺激療法、レーザー療法、東洋医学療法、理学療法、必要に応じて入院治療も可能

診療実績

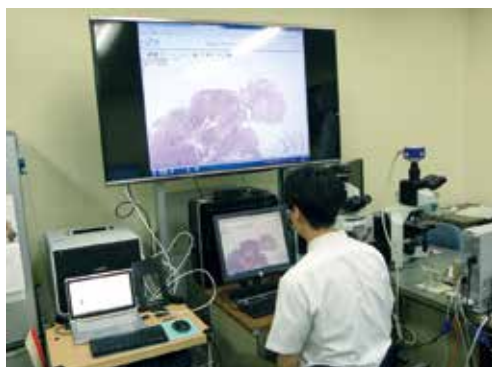
手術麻酔管理症例数 約 6,100 例、ペインクリニック外来患者数 約 2,400 例、緩和ケアチーム新規依頼数 約 340 例、緩和ケア病棟入院患者数 約 80 例

病理診断科

概要

附属病院の各診療科より提出された細胞・組織検体について病理診断を行うとともに、病理解剖も担当しています。また、地域医療機関の病理標本についてセカンドオピニオン診断を行っています。診断には、様々な免疫組織染色に加え、分子病理学的解析やテレパソロジーなど新しい手法を順次導入しています。

また、インターネット回線を用いた遠隔病理診断も実施し、地域医療の充実にも貢献しています。



地域医療機関で撮影された病理標本画像を専用回線を介して観察・診断する「遠隔病理診断」も実施しています。

専門分野

細胞診断、組織診断、手術中の迅速診断、病理解剖

診療実績

組織診断症例数 約 11,000 例、細胞診断症例数 約 11,000 例、病理解剖症例数 約 20 例

中央部門等ご案内

看護部

■概要

看護部は、看護師、助産師、看護補助員など約 900 人の組織です。患者さんの最も身近な存在として最良のケアを提供できるように日々取り組んでいます。多職種によるチーム医療をつなぐ役割も務め、療養生活を支えています。



看護師は、『患者の代弁者』となれるように日々努めています。

■業務内容

外来・病棟・中央部門における診療や患者さんの療養支援の看護実践、チーム医療における看護実践、専門看護外来の運営、看護職員の育成・キャリアアップ支援など

患者支援センター

概要

患者支援センターは、患者さんの入院から退院までの総合的な支援や、患者さんの療養生活や社会生活にまつわる医療、保健、福祉などの相談を看護師、社会福祉士が行います。また、地域の医療機関等との連携を推進しています。さらに、「がん相談支援センター」としての機能も担っています。

患者さん、ご家族、地域の開業医の先生方や医療機関、そして施設、事業所の方々からのご相談やご依頼をお受けいたします。どうぞ遠慮なくご利用ください。平成 29 年 12 月に「入院センター」が開設され、当センターから看護師を配置して、外来通院中、あるいは入院前から退院後まで一括して患者さんを支援しています。

業務内容

診療予約の受付（予約センター）、病床管理、入退院支援・在宅移行支援、地域連携（連携登録医制度）、医療・福祉相談、がん相談支援センター運営（情報提供・相談支援、就労支援、患者サロン）



患者さんが安心して療養できるよう、入退院支援、地域連携、相談支援業務等に取り組んでいます。

総合周産期母子医療センター

概要

ハイリスク妊娠の母体・胎児、その後異常の現れた新生児を同じ 6 階西病棟で産科、小児科、外科、眼科などが協力して治療する周産期医療を担当しています。県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、県内で発生する母体搬送や新生児搬送に迅速に対応するため、新生児搬送車やドクターヘリを用いています。

一方、健康な妊婦さんの正常分娩にも産科医、助産師が 24 時間対応しており、希望者には麻酔科の協力のもと無痛分娩も行っています。

業務内容

分娩、母体胎児集中治療（MFICU）、新生児集中治療（NICU）、遺伝外来



超低出生体重児の点滴確認をする看護師と様子を見守る医師。ご両親のもとに帰るまではこのように大切に育てられています。

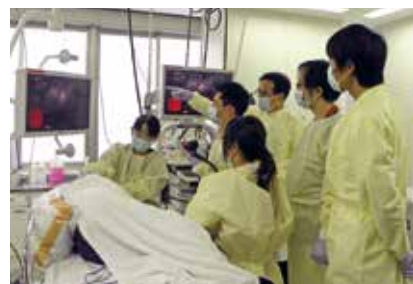
中央内視鏡部

概要

中央内視鏡部では、消化器及び呼吸器疾患に対する内視鏡を用いた診断及び治療を行っています。消化器内科、消化器外科、呼吸器内科の医師や看護師、臨床工学技士等の多職種が協力し、和歌山県の基幹病院として、最先端の内視鏡を用いた診断・治療の実践を積極的に行うなど、最高水準の医療を皆様に提供できるよう努めています。令和 3 年 2 月からは、髒がんセンターの髒がんドックが始まり、中央内視鏡部では、ドックメニューのうちの超音波内視鏡検査を行っています。また多くの新規内視鏡治療技術の開発を行っています。

業務内容

消化器・呼吸器内視鏡診断、気管支鏡診断、カプセル内視鏡、バルーン小腸内視鏡、食道癌・胃癌・大腸癌などに対する内視鏡的切除術、食道静脈瘤の治療、胃瘻造設術、内視鏡的膵管胆道造影、超音波内視鏡診断、超音波内視鏡下穿刺吸引生検、内視鏡的胆道ドレナージ、超音波内視鏡下胆道ドレナージ、胆道癌に対する内視鏡ラジオ波焼灼術、食道アカラシアなどに対する経口内視鏡的筋層切開術、膵神経内分泌腫瘍に対する超音波内視鏡下エタノール注入術、胆道癌に対する内視鏡ラジオ波焼灼術など



現在、年間に約 12000 例の内視鏡診断、内視鏡治療を行っております。

中央検査部

概要

中央検査部では、患者さんから採取した試料（血液・尿など）を分析する検体検査と、患者さんに接して検査する生理機能検査（心電図・超音波検査など）があります。それぞれの検査結果は、病気の早期発見をはじめ、診断や治療の経過観察に大いに役立てられています。検査室は、国際規格「ISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する事項）」を取得しており、規格を通して、臨床的により良質な検査を実施しています。



多数の自動測定機器を用い、迅速で正確な検査結果を提供しています。

業務内容

生化学検査、血液検査、免疫・血清検査、尿検査、生理機能検査、微生物検査、その他各種検査

中央放射線部

概要

中央放射線部は診療放射線技師、放射線科医師、看護師などのスタッフが協力して、画像診断、IVR治療、放射線治療に携わっています。2管球搭載CTや、3テスラMRI、ハイブリッド手術対応血管撮影装置、320列IVR-CT装置などの最新の装置を用い、正確な画像診断や画像下治療に貢献しています。放射線治療では高精度放射線治療装置や密封小線源治療装置を使用し、安全で高度な放射線治療を提供しています。



最上位のCTと血管造影装置を組み合わせた装置。大幅な被ばく低減と画質向上が可能。

業務内容

画像診断（一般撮影、CT撮影、MRI撮影、X線TV撮影、RI検査、血管撮影、骨密度測定）、画像下治療（IVR）、放射線治療（外照射、小線源治療）

リハビリテーション部

概要

リハビリテーション科医師と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がチームとなり、超急性期からのリハビリテーション治療を実践しています。対象は脳血管疾患、整形外科疾患、心血管疾患、がんの周術期や化学療法中の患者さんをはじめ、院内全科からの紹介に対応しています。治療は紹介当日から開始し多職種で検討会を行い、方針を検討しています。そして翌朝から退院されるまで、患者さんのお部屋を回診させていただき、状態を確認したうえで治療を実施しています。教育面では地域の病院で勤務されている療法士の研修や、学生実習も積極的に受け入れ、職員と一緒に臨床業務や急変時対応、災害対策訓練等も実施しています。



災害対策訓練の様子

業務内容

リハビリテーション治療（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）

認知症疾患医療センター

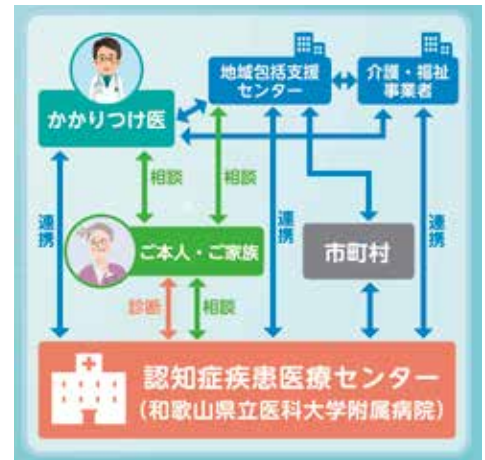
概要

当センターでは、認知症に関する専門医療相談（治療や介護、関わり方の相談）や鑑別診断（認知症の有無や重症度、原因精査 ※完全予約制）を行います。かかりつけ医・保健・福祉関係機関と連携しながら、認知症の方やご家族が住み慣れた地域で安心して生活していただけるように支援を行っていきます。

電話での相談も受け付けていますので、073-441-0776 までお気軽にお電話ください。（受付時間：平日 9:00～17:00）

業務内容

認知症専門医療相談の実施、認知症の診断と対応、身体合併症・精神症状への対応、診断後等支援機能に関する事業、アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬に関わる治療・相談支援、地域包括支援センター等との連携、研修会の開催、普及啓発、認知症疾患医療センター連携会議の開催、県内認知症疾患医療センター運営事業の着実な実施に向けた取組の推進



肝疾患相談支援センター

概要

当院は、平成22年1月に和歌山県の肝疾患診療連携拠点病院に指定され、C型肝炎やB型肝炎等、肝臓病の患者さんが早期に適切な治療を受けられるよう、肝疾患相談支援センターを開設いたしました。患者さんだけでなく、その家族も含め、病気の悩みや治療の不安、日常生活の注意点、医療費助成制度などの相談を、専門看護師が無料で受け付けます。また、相談については、当院に通院しているか否かを問わず、どなたでも受けることができます。

業務内容

肝臓病に関する相談窓口、肝臓病に関する医療費助成制度の案内、肝臓専門外来の紹介、和歌山県及び院内における肝炎対策（調査、市民公開講座を含む啓蒙活動、肝炎コーディネーターの研修及び養成等）、病診連携、和歌山県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会の開催

肝臓病に関することは
どんなことでも
肝疾患相談支援センターへ
お気軽にご相談ください

相談日
月曜～金曜：9時～12時、13時～16時
(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

相談方法
面談（予約制、無料）

和歌山県立医科大学附属病院
073-441-0850

肝臓病に関するご相談を無料で受け付けています。

病態栄養治療部

概要

「栄養管理は治療の一部」という認識のもと、適切な栄養管理体制による栄養評価・診断、急性期医療にも適した安全で満足度の高い治療食の提供を行っています。専門資格をもつ管理栄養士が多職種と連携したチーム医療を実践し、個々の病状や高齢化の課題に対応したきめ細かな栄養食事指導を目指しています。

特定機能病院として高度な栄養管理と食事サービスを総合的に提供しています。



NST：栄養サポートチームによる高度なチーム医療を実践し、入院患者への栄養支援や困難症例への専門的介入を行います。

業務内容

食事の提供：急性期の高度医療に対応し、病状の変動に即した安全で適切な食事管理・提供を行います。
栄養指導：入院・外来を問わず、多様な疾患を持つ各患者の病態に合わせた専門的な指導を行います。

薬剤部

概要

個々の患者さんに適切で安全な医療を提供できるよう他の医療スタッフと連携し、より良い薬物療法の推進に努めています。医薬品の調剤、管理、投与計画に基づいた抗がん剤の調製はもとより、入院患者さんの状態をよく把握し、より安全、より有効に薬物治療を実施できるよう各病棟に薬剤師を配置しています。また、感染制御 (ICT)、緩和ケア、術後疼痛管理、褥瘡対策や栄養サポート (NST) など医療チームの一員としても活動しています。さらに、スキルアップのための研修や学術発表、薬学部生の実務実習の受け入れにも力を入れています。



外来薬物療法センターでは、薬剤師が外来および入院患者の抗がん剤調製を行っています。

業務内容

調剤業務、注射剤調剤業務 (無菌調製含む)、外来薬物療法センター業務、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、製剤業務、医薬品情報管理業務、麻薬業務、医療品管理業務、入院前お薬確認業務、手術室薬剤管理業務

腫瘍センター

概要

臓器横断的かつ職種横断的なチーム医療を基本とした先進的・集学的ながん診療の充実を図るとともに、県内のがん専門医等の育成に務めることを目的として設置されています。

また、県内のがんに関する情報の収集・分析を行い、そのせいかはがん対策の企画と評価に役立てられています。



学生や院外の医療者も参加可能な勉強会を開催するなど、がん医療の教育活動も実施しています。

業務内容

薬物療法部門：外来薬物療法センター・がん専門高度医療スタッフの教育および育成・外来における新薬開発治験の実施運用
放射線治療部門：悪性腫瘍および良性病変に対する外部照射 (三次元、高精度定位および強度変調照射)、小線源治療 (腔内/組織内照射) 及び内部照射 (甲状腺癌、前立腺癌に対応)
緩和ケアセンター：すべての悪性腫瘍による苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上、診断された時から終末期まで切れ目のない身体的 / 心理社会的サポートを多職種で提供
がん登録室：県内のがん登録情報の収集・分析
がんゲノム医療部門：がんゲノム医療外来 (がん遺伝子パネル検査等)・エキスパートパネル・大学病院内におけるがんゲノム医療統括

卒後臨床研修センター

概要

当センターは、平成 16 年に改められた臨床研修制度に伴い発足し、以来、多くの研修医を育成しています。

当院独自の臨床研修プログラムは、県内及び近隣府県の医療機関と協力して自由度が高いローテートを実現し、1 次から 3 次まで受け入れる救急では幅広い疾患・病態を経験できます。医学部学生からの評価も高く、当院の臨床研修マッチングは全国トップレベルに位置しています。当センターでは、未来の医療を支える若い医師が持つ多様な目標が実現できるよう、臨床研修医を全力で支援しています。



令和 7 年度採用研修医の集合写真。お互いに協力し合いながら研修を進めています。

業務内容

医学生の病院見学、研修医の募集・採用、研修プログラムの作成及び研修ローテートの調整・管理・サポート等の臨床研修に係る業務等

輸血部

概要

輸血部では、日本輸血・細胞治療学会認定医および認定輸血検査技師を中心に 24 時間体制で輸血前検査、自己血を含む輸血用血液製剤の管理と供給、造血幹細胞移植をはじめとする細胞治療などを通じて、患者さんへの診療支援を行っています。



安全な輸血治療ができることを目指し、血液製剤の管理と輸血関連検査を行っています。

業務内容

輸血に関連する血液型や交差適合試験などの検査、輸血用血液製剤の保管・管理、貯血式自己血の保管・管理、細胞治療（造血幹細胞移植・CAR-T 療法）関連業務、輸血副作用の調査、医療従事者対象の輸血研修

中央手術部

概要

中央手術部では 19 の手術室で年間約 9,000 件の手術がおこなわれており、そのうち緊急手術は、約 20% を占めています。少しでも早く当院の高度な手術治療を提供できるよう、適切な運用に努めていきます。高度な医療を安全・安心に提供できるようにスタッフ一同頑張っています。



最新の機器を導入し高度な手術医療を提供しています。

業務内容

手術室の運用・管理、手術に関する各種業務

臨床工学センター

概要

当センターでは、一般的な医療機器や、生命維持管理装置と呼ばれる体外循環監視装置、人工呼吸装置、血液浄化装置、内視鏡装置、不整脈管理治療装置、高気圧酸素治療装置などの医療機器操作から保守点検まで行う重要な役割を担っています。また当直体制を整備し、緊急対応にも勤しんでおります。



ペースメーカーの埋め込みや経皮的に大動脈弁を置換する手術を施工するハイブリッド手術室。

業務内容

体外循環関連業務、人工呼吸管理業務、血液浄化業務、ME 機器管理業務、内視鏡業務、不整脈治療関連業務、高気圧酸素治療業務など

医療安全推進部

概要

医療安全推進部は、医療事故等の防止および医療の安全性の確保を目的として設置されています。病院全体で医療安全の推進に取り組むとともに、医療安全文化の醸成・確立を目指しています。また、各部門にリスクマネージャーを配置し、安全管理に関する点検や改善、安全対策に関する事項の周知徹底を行っています。



病棟巡回で安全確認を行っています。

業務内容

インシデントおよびアクシデント報告の収集・分析・検討、医療安全推進研修会の開催、院内における医療安全に関する確認・調査・指導、医療安全推進委員会やリスクマネージャー会議を開催、安全対策の検討や報告事例の検証、改善策の立案・実施

感染制御部

概要

感染制御部は、患者さんが安心して治療に専念できる安全な医療環境と、職員が健康で働くことができる職場環境の提供を目指し、感染症診断・治療の支援と院内感染対策の推進に取り組んでいます。



院内ラウンド

業務内容

病院内での感染症の把握、院内感染に関する調査・分析・検討、感染対策マニュアルの作成・改正、抗菌薬適正使用及び院内感染対策に関する教育・指導及び支援、院内感染対策に関する相談

医療情報部

概要

医療情報部は、病院情報システムの管理運用を行う情報システム担当と診療記録等の管理を行う診療情報管理担当から構成されています。

電子カルテシステムの運用や診療録記載管理、各種統計資料の作成や支援を行い、当院の高度な医療を支えています。



病院の活動を 24 時間支える医療情報システムサーバ群

業務内容

電子カルテ及び病院情報システムの運営管理、部門システムの管理、各種システムの導入支援、診療録記載管理、診療録等の運用管理、退院サマリ管理、電子カルテスキャン業務管理、各種医療統計・疾病統計の作成及び支援

臨床研究センター

概要

新たな薬剤・医療機器を生み出したり、より優れた治療法を築くためには、治験や臨床研究が必要となります。

臨床研究センターでは、このような治験や臨床研究に携わる医師や医療スタッフに向けて各種の支援業務を行なっています。

また、倫理講習会などの各種セミナーを開催する等、教育活動にも取り組んでいます。



臨床研究実施に関わる各種セミナーを定期的に開催しています。

業務内容

治験管理部門：治験コーディネーター(CRC)業務(企業治験・医師主導治験)、治験薬管理業務

データセンター部門：臨床研究全般のデータマネジメント支援、統計解析支援、プロトコール作成支援等

臨床研究教育・管理部門：臨床研究に携わる教職員及び倫理審査委員への各種教育、英語論文校閲、臨床研究の適正な実施のための体制整備活動等

臨床研究支援部門：院内外の臨床研究の立ち上げ支援、臨床研究事務局補佐、モニタリング補佐など

監査室：臨床研究に対する監査の実施

事務室：倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会、治験審査委員会事務局業務、臨床研究センターの運営管理、治験事務局業務

遺伝診療部

概要

疾病には染色体や遺伝子の変化によって引き起こされる遺伝情報の変化がさまざまな程度で関係していることがわかっています。これらを遺伝性疾患と呼びます。遺伝診療部は臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが遺伝性疾患に関する患者さんやご家族の不安や悩み、疑問に対応するために平成28年1月から遺伝外来として開設され、平成30年1月から遺伝診療部となりました。遺伝カウンセリングを行うとともに、必要に応じて検査を行い、病気に対する情報を提供します。公認心理師が同席しています。ご心配ごとがあればお話を伺っています。

業務内容

NIPT・羊水検査などの出生前診断や遺伝性腫瘍についての遺伝カウンセリングおよび検査を行っています。また、遺伝子の変異のある方に有効な腫瘍の治療薬がありますので、遺伝子検査を行いお薬が使用可能かを調べています。がん遺伝子検査外来とも連携して遺伝性腫瘍が疑われた場合は、遺伝カウンセリングの後、ご希望があれば検査を実施します。検査可能な遺伝性疾患を増やして対応しています。遺伝カウンセリングをご希望の場合は遺伝専用回線までご連絡ください。



遺伝診療部スタッフ（医師・認定遺伝カウンセラー・公認心理師）

中央滅菌部

概要

中央滅菌部では、病棟や外来、中央手術部で使用する医療用器材の洗浄（洗浄・消毒装置または手洗い）、乾燥、滅菌（高圧蒸気滅菌器、過酸化水素低温プラズマ滅菌器、EOG滅菌器による各器材に応じた滅菌）、保守点検、組み立て、保管、管理及び供給を行うことで、患者さんに安全、安心で良質な医療を提供し、院内感染や作業従事者への感染暴露等の防止に重要な役割を担っています。



洗浄・消毒装置

業務内容

医療用器材の洗浄・乾燥・滅菌・保守点検・保管・管理・供給、使用目的に合わせた適切な滅菌方法の選択

リンパ浮腫外来

概要

リンパ浮腫とは、がんの術後や放射線治療後にリンパの流れが阻害されて起こるむくみのことです。手足が大きくむくむことにより日常生活に支障をきたすことも多く、一度発症すると完治は難しい病気ですが、正しいケアによりむくみを軽減し、それを維持することはできます。

当外来では、その方の状態に合わせてリンパ浮腫のケア（複合的治療を行いながら、ご自身でケアを継続できるよう、正しいケア方法を習得していただきます）。

また蜂窩織炎を繰り返す方、陰部・下腹部のリンパ浮腫を認める方より症状の改善を目指される方には外科的治療（リンパ管静脈吻合術）を考慮しています。リンパ浮腫外来では、複合的治療から外科的治療に至るまで、一貫した治療を行っております。



リンパドレナージの様子

業務内容

複合的治療や外科治療の説明、圧迫材料の選定・調整、リンパドレナージの指導・実施

助産師外来

概要

助産師外来とは、正常な経過をたどる妊婦さんを対象に助産師が行う妊婦健診の外来のことです。医師が担当する妊婦健診と交互に、日本助産評価機構に認証を受けた助産師（アドバンス助産師）が妊娠 24 週・28 週・34 週・38 週の健診を担当します。

助産師外来では、通常の妊婦健診に加え、妊婦さんとご家族のお話をゆっくりとお聞きます。日頃気になっていることの解決や体の変化への対処の方法、お産の準備など、一人ひとりに合わせたアドバイスをしています。その人らしい満足のいくお産となるようサポートします。



助産師外来は日本助産評価機構認定のアドバンス助産師が担当しています。

業務内容

保健指導、妊婦健診（問診・尿検査・血圧測定・子宮底長と腹囲測定・胎児心音の聴取）、バースプランの作成、乳房ケア、不安や悩みの相談など

膵がんセンター

概要

難治性癌である膵がんの治療成績向上を目指して令和元年9月に開設しました。膵がんセンターでは、消化器内科、消化器外科、放射線科及び病理診断科などが連携して診断及び治療にあたり、看護部と患者支援センターが情報提供窓口となるほか、臨床研究センターや消化器内科・外科、基礎講座などが共同で疫学研究を行います。

また、令和3年2月から膵がんドックを開設して、検診にも力をいれて取り組んでいます。

●膵がんに関する相談のため診察をご希望の場合

膵がんセンター予約 Hotline 073-441-0905

●膵がんドックの予約をご希望の場合

予約センター 073-441-0489

業務内容

膵がんの診断および治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療）、膵がん早期発見のための検診（膵がんドック）、膵がんに関する地域住民の相談窓口・情報提供、膵がんの診断および治療の教育、膵がんの基礎臨床研究、膵がんに関する他の医療機関との連携、膵がん以外の膵疾患・胆道疾患に関する相談

膵がん治療に関する相談対応 Hotline



膵がんセンター
073-441-0905

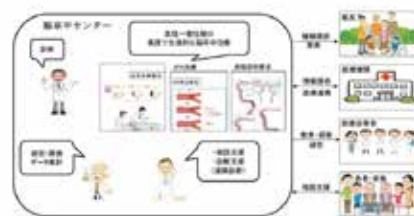
膵がんセンター予約 Hotline

脳卒中センター

概要

脳卒中は、早く適切な治療を行うことで高い治療効果が得られ、その結果後遺症の発生率が低くなることがわかっています。これまで脳卒中の治療や研究を主に担ってきた脳神経外科が脳神経内科、救急科、放射線科、リハビリテーション科などと連携し、脳卒中全般にわたり高度で先進的な医療技術をより迅速に提供できる『脳卒中センター』を令和元年11月1日より設置しました。

脳卒中センターの役割



業務内容

- ①脳卒中全般にわたり高度な治療を24時間365日提供、②最新治療法の研究開発、③遠隔診断システムによる地域病院への診療支援、④専門医療従事者の育成、⑤市民公開講座などによる県民への啓発活動、⑥患者さんや家族からの相談支援

小児医療センター

概要

近年、児童虐待や慢性疾患を抱え成人期に移行する子どもの増加など、小児医療を取り巻く環境はより多様化・複雑化し、小児科単独では十分な対応が困難な状況となっています。そこで複数の診療科にまたがる子どもの疾患に対して緊密な連携を行い、和歌山県内の子どもの病気は当小児医療センターで解決できる体制構築のために、小児医療センターの中央部門化を実現しました。当センターでは、医師のみならず、看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、保育士、栄養士、薬剤師といったコメディカルによる多職種連携によって様々な角度から専門的に病気の子どものと家族を支援し、信頼される医療体制の構築を目指しています。何卒、ご協力・ご支援をお願い致します。



多職種で協働しながら、和歌山県の小児医療に取り組んでいます。

業務内容

- 新生児から思春期までの子ども生育サイクルに応じた最適な医療・療養環境の提供、各地域の拠点病院との医療連携、子どもと家族に対する相談支援、地域住民への情報提供および啓発、専門的医療従事者の人材育成等

心臓血管病センター

概要

心臓病には血管病や腎臓病など心臓以外の疾患が併存することが多いため、複数の診療科での治療が必要です。また医療機器・薬剤・リハビリテーション等の各種専門職の介入も必須です。そこで当院の心臓血管疾患の関連診療科および各部門が連携して高度先進医療を提供するために、令和5年11月1日に「心臓血管病センター」を設立しました。

業務内容

- ①心臓血管病に対する高度先進医療の提供 ②和歌山県の心臓血管病医療の中核機関として地域医療機関との連携 ③次世代を担う専門的医療従事者の人材育成 ④患者さんや家族に対する相談支援、地域住民への情報提供及び啓発 ⑤心臓血管病治療において和歌山発の新たな技術等の開発及び研究

心臓血管病センターにおいてシームレスなチーム医療で提供される先進的心臓血管病治療



和歌山県立医科大学附属病院 紹介予約申込書

予約センター宛 FAX 073-441-0805

受付時間 9:00~19:00(月・火・水・金) 9:00~17:00(木) ※祝日、年末年始を除く

本用紙と診療情報提供書で、ご予約のお申し込みを承ります。すぐに診療情報提供書をご準備できない場合は、お申し込み後概ね3日を目途にFAXのご送付をお願いします。

申込日 年 月 日

当院受診歴	<input type="checkbox"/> あり (旧姓で登録済の場合、旧姓:) <input type="checkbox"/> なし		
フリガナ	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	
患者名	<input type="checkbox"/> 女	年 月 日生	
住所	(〒 -) 自宅: - - 携帯: - - <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 本人以外(続柄:)		
患者の状況	<input type="checkbox"/> 外来患者 (<input type="checkbox"/> 待機中) <input type="checkbox"/> 入院患者		
希望する予約日	(第1希望) 月 日	(第2希望) 月 日	(第3希望) 月 日
受診希望科			
<input type="checkbox"/> 糖尿病・内分泌・代謝内科	<input type="checkbox"/> 消化器内科	<input type="checkbox"/> 呼吸器内科・腫瘍内科	<input type="checkbox"/> 循環器内科
<input type="checkbox"/> 腎臓内科	<input type="checkbox"/> 血液内科	<input type="checkbox"/> 脳神経内科	<input type="checkbox"/> リウマチ・膠原病内科
<input type="checkbox"/> 小児科	<input type="checkbox"/> 神経精神科	<input type="checkbox"/> 心臓血管外科	<input type="checkbox"/> 呼吸器外科・乳腺外科
<input type="checkbox"/> 消化器・内分泌・小児外科	<input type="checkbox"/> 脳神経外科	<input type="checkbox"/> 整形外科	<input type="checkbox"/> 形成外科
<input type="checkbox"/> 泌尿器科	<input type="checkbox"/> 産科・婦人科	<input type="checkbox"/> 眼科	<input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
<input type="checkbox"/> 皮膚科	<input type="checkbox"/> 歯科口腔外科	<input type="checkbox"/> 放射線科	<input type="checkbox"/> リハビリテーション科
<input type="checkbox"/> 麻酔科	<input type="checkbox"/> 緩和ケア	<input type="checkbox"/> 認知症疾患医療センター	
希望医師名			
傷病名	※日本語でわかりやすくご記入ください		
紹介目的	<input type="checkbox"/> 診察 <input type="checkbox"/> 検査 <input type="checkbox"/> 治療 <input type="checkbox"/> その他 ()		
紹介元医療機関名	担当者:	TEL: - -	FAX: - -
診療科	科	医師名	

- ※ 患者名のフリガナはコンピュータ登録に必要となりますので、必ずご記入ください。
- ※ 予約日時が決まり次第、予約票を送信します。
- ※ FAXは受付時間後も承りますが、対応は翌平日となりますのでご了承ください。
- ※ 予約受付は、希望する予約日前日(前日が休日のときは直近の診療日)の受付時間内までとします。
- ※ 診療科・医師によってはご希望に沿えない場合がありますので、ご了承ください。

セカンドオピニオンが目的の場合は、この予約申込書では受け付けておりません。

セカンドオピニオン外来 (073-441-0824) までお電話ください。

医療機関専用お問い合わせ先 TEL: 073-441-0804

(電話対応時間: 祝日、年末年始を除く 月・火・水・金 9:00~19:00 / 木 9:00~17:00)



校章「まんだらげ」について

和歌山県立医科大学は、医の心のルーツを和歌山が生んだ医聖 華岡青洲に求めています。

本学の校章は、青洲が世界初の全身麻酔薬として用いた植物「まんだらげ(チョウセンアサガオ)」の花に「医」の文字をデザインしたものです。

和歌山県立医科大学附属病院

〒641-8510 和歌山県和歌山市紀三井寺811番地1 TEL 073-447-2300

ホームページ <https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/>